

福山市 公共空間ばらの植栽デザイン計画



2022年（令和4年）3月

福 山 市

目次

1	計画の背景	
	福山市のばらの歴史と展開	P2
	上位計画からの位置づけ	P3
	2021年度（令和3年度）第3回福山市市政モニターアンケート	P4-5
2	植栽デザイン計画の基本的な考え方：持続可能なばらのまちづくり	
	植栽デザイン計画の基本的な考え方とめざすもの	P6
3	市民参加によるばら植栽フィールド調査から見てきた課題と今後の計画の方針	
	市民参加によるばら植栽フィールド調査	P7
	維持管理に市民が参加できる体制づくり・維持管理の方針	P8
	植栽デザイン計画のフロー	P9
4	コンセプトと植栽方針	
	これからのばらのまちづくりのコンセプト～持続可能なローズガーデンシティ～	P10
	今後の植栽方針	P11
5	各ゾーンの整備方針	
	3つのばらゾーン「福山ばら物語」	P12-13
	各ゾーンの整備方針	P14
	ばらのシンボルゾーン	P15
	ばら公園	P16-18
	花園公園	P19
	緑町公園	P20-21
	ばらの賑わいゾーン	P22
	福山駅前広場	P23
	福山市役所（本庁舎）	P24-25
	街路（ローズロードほか）	P26-28
	中央公園	P29
	ばらと城（歴史文化）のゾーン	P30
	古（いにしえ）のばら園	P31
	福山駅北口スクエア	P32
6	ばらの新たな拠点づくり（園芸センター）	
	ばらの新たな拠点づくり	P33
7	基本的な問題と解決方法	
	基本的な問題と解決方法	P34
	土壌改良の方針	P35
	ばらの品種の選定	P36
	ローメンテナンスなばらの品種	P37
	使用するばらの主な品種	P38-39
	デザイン方針の一覧表	P40
	維持管理に関して	P41
	今後の検討課題	P42
	植物調達計画	P43
8	国内外の参考事例（ばらの魅力を高めるデザイン集）	P44～

■ばらの歴史

本市のばらのまちづくりは戦後まもなく、現在のばら公園付近の住民がばら苗約1,000本を植えたことから始まり、2006年（平成18年）に世界バラ会議大阪大会で優秀ガーデン賞を受賞、2010年度（平成22年度）からは『ばらのアクションプラン～みんなの「ばら」100万本プロジェクト～』に取り組み、2016年（平成28年）5月に「100万本のばらのまち福山」を実現した。

この取組の過程のなかで、ローズマインドという言葉「思いやり・優しさ・助け合いの心」が市民に根付くなど、ばらは本市のまちづくりの骨格となっている。

■歴史と展開

1950年代半ば	住民がばらの苗約1,000本を植栽
1968年（昭和43年）	全国美しい町づくり賞最優秀賞受賞
1985年（昭和60年）	市の花「ばら」を制定
2006年（平成18年）	世界バラ会議大阪大会で優秀ガーデン賞受賞
2015年（平成27年）	福山市ばらのまち条例制定
2016年（平成28年）	市制施行100周年「100万本のばらのまち福山」の実現
2018年（平成30年）	第20回世界バラ会議福山大会2025（以下「福山大会」という。）開催決定 (第18回世界バラ会議コペンハーゲン大会にて)



ローズマインド

福山の戦後復興から半世紀の歩みのなかで、誕生し根付いた言葉で、「思いやり・優しさ・助け合いの心」を表現。平和、ばら栽培に必要な愛情、人への優しさなど様々な想いが込められている。



福山市ばらのまち条例 2015年（平成27年）9月制定

市民及び市が一体となってばらのまちづくりの推進に努め、もって平和の尊さや心の豊かさが実感できる活力ある福山の実現を図ることを目的とする。身近にばらに触れ親しむことができるようばらの普及、ばらの歴史についての学習、ばらを通じた都市ブランドの向上に努めるなどを基本事項として取り組む。5月21日を「ばらの日」と定める。

ばらのアクションプラン～みんなの「ばら」100万本プロジェクト～
2010年（平成22年）3月

- 1 新たな名所、拠点となる場所の創出プロジェクト
- 2 全市を挙げてみんなで取り組むプロジェクト
- 3 ばらの植栽サポートプロジェクト
- 4 花だけじゃない!! ばらのアピールプロジェクト

■福山みらい創造ビジョン

本市の基本理念は、「人間環境都市」である。この基本理念の下、2017年度（平成29年度）から「活力と魅力に満ちた輝くまち」の実現を目標とした第五次福山市総合計画第1期基本計画を推進してきた。そして、2020年度（令和2年度）に＜福山みらい創造ビジョン 2021年度～2025年度＞を策定し、「安全」と「希望」の都市の実現に向けて様々な取組を展開していくとされている。

□SDGs推進の機運の高まり（福山市の現状や方向性）では

「戦後60年以上にわたり、市民が主体となって培ってきたばらのまちづくりは、SDGsの理念にも沿った本市の代表的な取組です。ばらのまちづくりを通じてローズマインド(思いやり・優しさ・助け合いの心)を市民文化として根付かせ、世界に誇れる「ばらのまち福山」の実現に向けて取り組んできました。」と、ばらのまちづくりはSDGsの理念に沿った取組であることが述べられている。

□市政運営方針（ビジョンの推進に向けて）の⑥の共創では

SDGsへの理解を深め、ばらのまちづくりに代表される協働の取組などを更に発展させ、多様な主体と共に創意工夫の下、新たな都市の魅力や地域の価値を創造するとされている。

□挑戦1の3のMICEの推進（世界バラ会議）では

MICEを通じて新たな価値を創出・発信し、地域経済に活力を与えているものとして福山大会を位置づけ、当該実行委員会と連携し、開催に向けた取組を推進するとされている。

□歴史・文化の薫るまちづくり

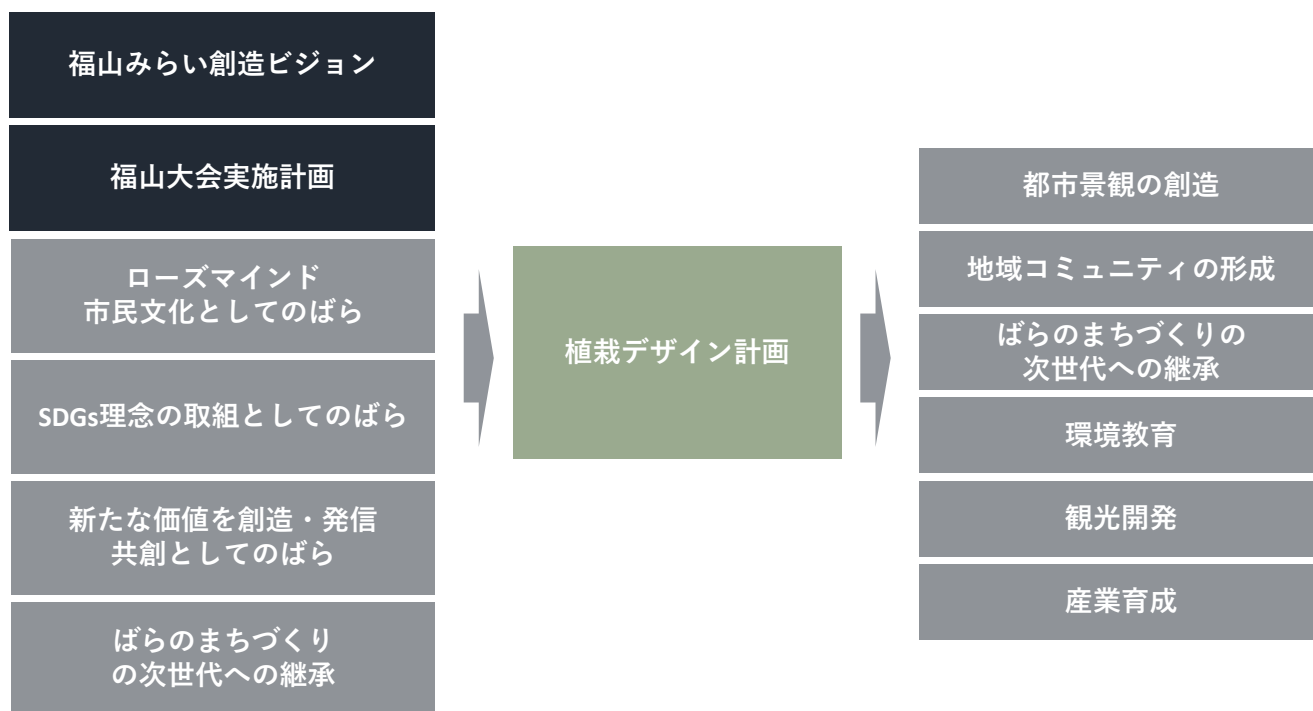
福山大会を通じて、戦後復興のシンボルであるばらのまちづくりの次世代への継承や市内外への発信を強化し、ばらの新たな価値や都市の魅力を共創するとされている。

■福山大会実施計画

福山大会実施計画は、福山大会の成功に向けて、実施すべき事項を定めたものである。

福山大会実施計画では、「XIII レガシー創出計画」において、地域を創る・地域発展のレガシーとして、まちなかのばらや市内の公共空間におけるばらの魅力向上に向け、植栽デザインを検討し、ばらの環境整備を行い、「ばらのまち福山」の玄関口にふさわしい福山駅前のイメージアップなど、世界からの来訪者を迎えられる美しい環境整備を行うとしている。

「公共空間ばらの植栽デザイン計画（以下「植栽デザイン計画」という。）」は、福山みらい創造ビジョンで示す方針や実施計画を踏まえ、福山大会に向けて、未来へとつながる持続可能なばらのまちづくりについて考えるとともに、開催都市に相応しい形で世界中の人たちをお迎えするための、まちなかのばらやばら園をはじめとする公共空間におけるばらの植栽デザイン計画を策定するものである。



■福山市市政モニターアンケート

本市は2021年度（令和3年度）に市政モニターアンケートで「福山大会」について市民の現在の意見を集約した。「福山大会」は2025年（令和7年）の開催であり、現在のところ認知度は約50%であるが、モニターアンケート1では、これからの普及、啓発活動により認知度が高まるとともに、期待度も大きくなると予想している。

モニターアンケート2では福山大会の成功に向けた取り組む内容を調査しており、「公園やまちなかの魅力アップ」が53%を占め、この植栽デザイン計画の役割が大きいと考えられる。

■モニターアンケート1

調査項目の2として「福山大会に向けた持続可能なばらのまちづくりについて」アンケートを行った。調査の結果、「福山大会」開催の認知度について、「知っている」が50.1%、「知らない」が49.5%であった。（図-1）

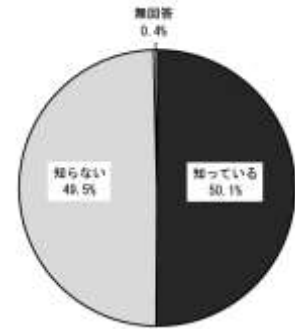


図-1. 「世界パラ会議福山大会」の認知度

福山大会に対する期待度は「大いに期待する」が17.2%、「期待する」が35.4%で、その合計は52.6%であり、これからの普及、啓発活動により認知度が高まるとともに、期待度も大きくなると予想される。（図-2）

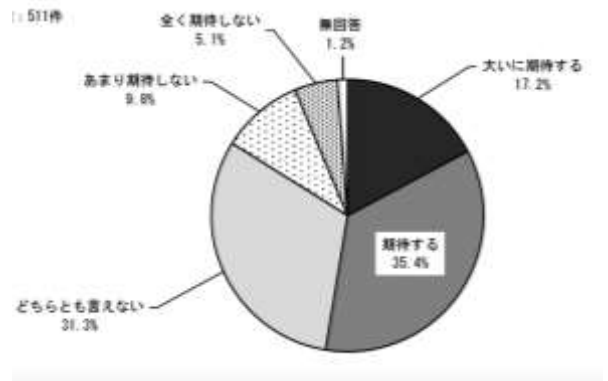


図-2. 「世界パラ会議福山大会」の期待度

□期待する理由についての分析（図-3）

「まちのにぎわいや活性化につながるから」が67.3%、「ばらのまち福山を世界にPRし、知名度が向上するから」65.4%、「ばらの充実など、まちの環境美化につながるから」が50.2%で「福山大会」を通じて、より良いまちづくりを実現できると考えている。

□期待しない理由についての分析（図-4）

「福山大会で何をするのか分からない」が62.7%、「福山大会を開催することによる効果が分からない」が52.5%あり、今後のPR、啓発活動が重要であることがわかる。

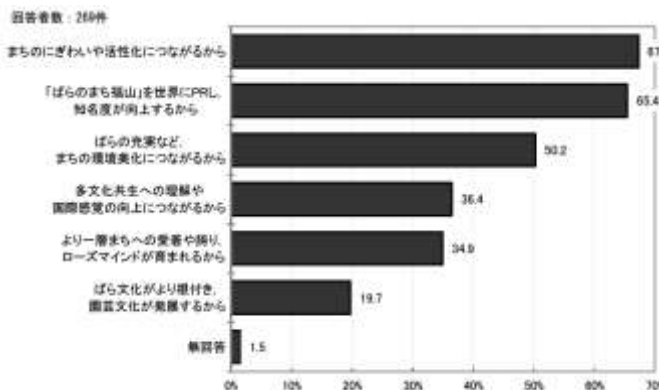


図-3. 「世界パラ会議福山大会」期待する理由

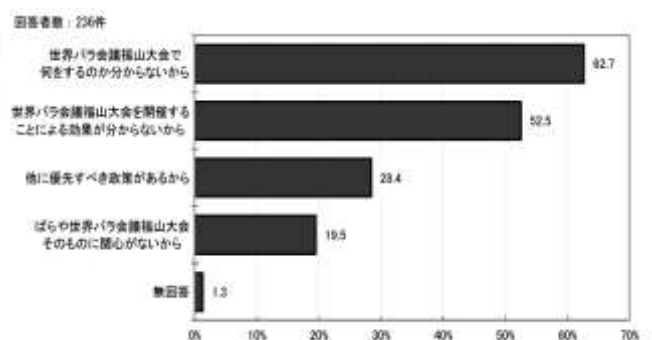


図-4. 「世界パラ会議福山大会」期待しない理由

■モニターアンケート2

福山大会の成功の向け、どのようなことに取り組んでいく必要があるかという質問に対して、53%が「公園やまちなかのばらの魅力度アップ」と答えており、この植栽デザイン計画では、公園やまちなかの魅力のアップをめざす。

■ KPIの設定

2020年度（令和2年度）策定「福山みらい創造ビジョン」（「安心」と「希望」の都市の実現に向けて2021-2025）では、次のようなKPIを設定している。

本市のばらのまちづくりについて、誇りを感じる人の割合：2020年（35.1%）→2025年（43.9%）とする。

総観光客数

2019年（6,296千人）→2025年（6,600千人）

■植栽デザイン計画の重要性

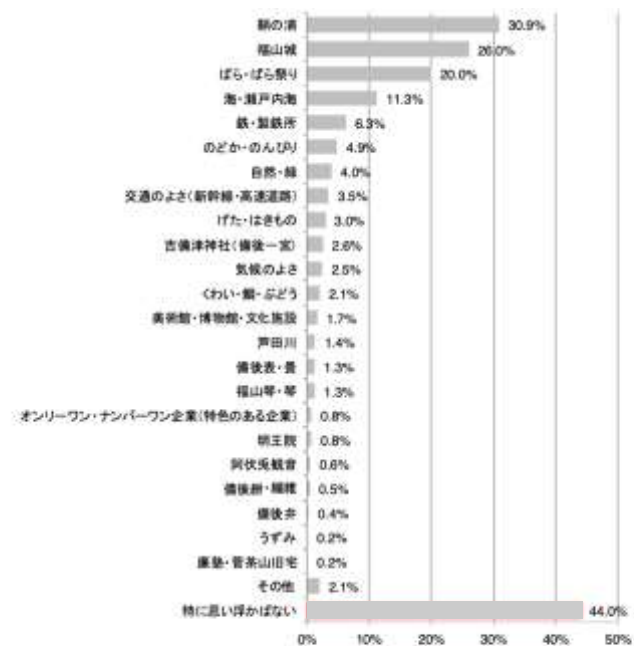
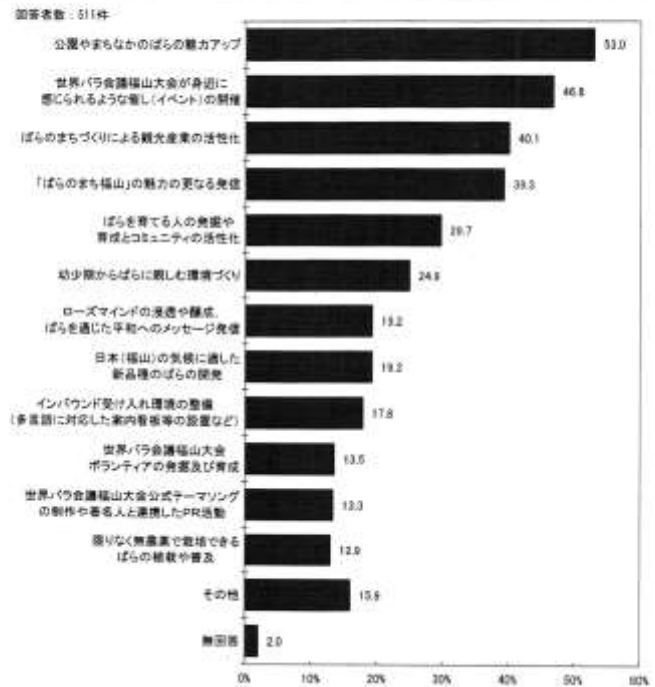
KPIの目標を達成するための手段となる。

■「福山市と聞いて思い浮かべるもの（市外在住者）」

2015年（平成27年）の第五次福山市総合画策定のための基礎報告書の結果を右の図のようにまとめられている。それによると、の浦、福山城について、ばら・福山ばら祭あげられており、ばら・福山ばら祭は市外在住者にも認知度が高いことがわかる。

問6 世界バラ会議福山大会の成功に向け、どのようなことに取り組んでいく必要があると思いますか。次の中から当てはまるもの全てに「○」を記入してください。【複数回答】

「公園やまちなかのばらの魅力アップ」が53.0%で最も高くなっています。次いで「世界バラ会議福山大会が身近に感じられるような催し(イベント)の開催」が46.8%、「ばらのまちづくりによる観光産業の活性化」が40.1%で続いています。



■インターネット調査結果 設問:「福山市」と聞いて思い浮かべるもの(複数回答, 市外在住者のみ)

○調査対象: 福山市を除く全国の20歳以上の男女2,000人
 ○調査方法: インターネット活用による調査
 ○調査時期: 2015年(平成27年)3月4日(水)・5日(木)

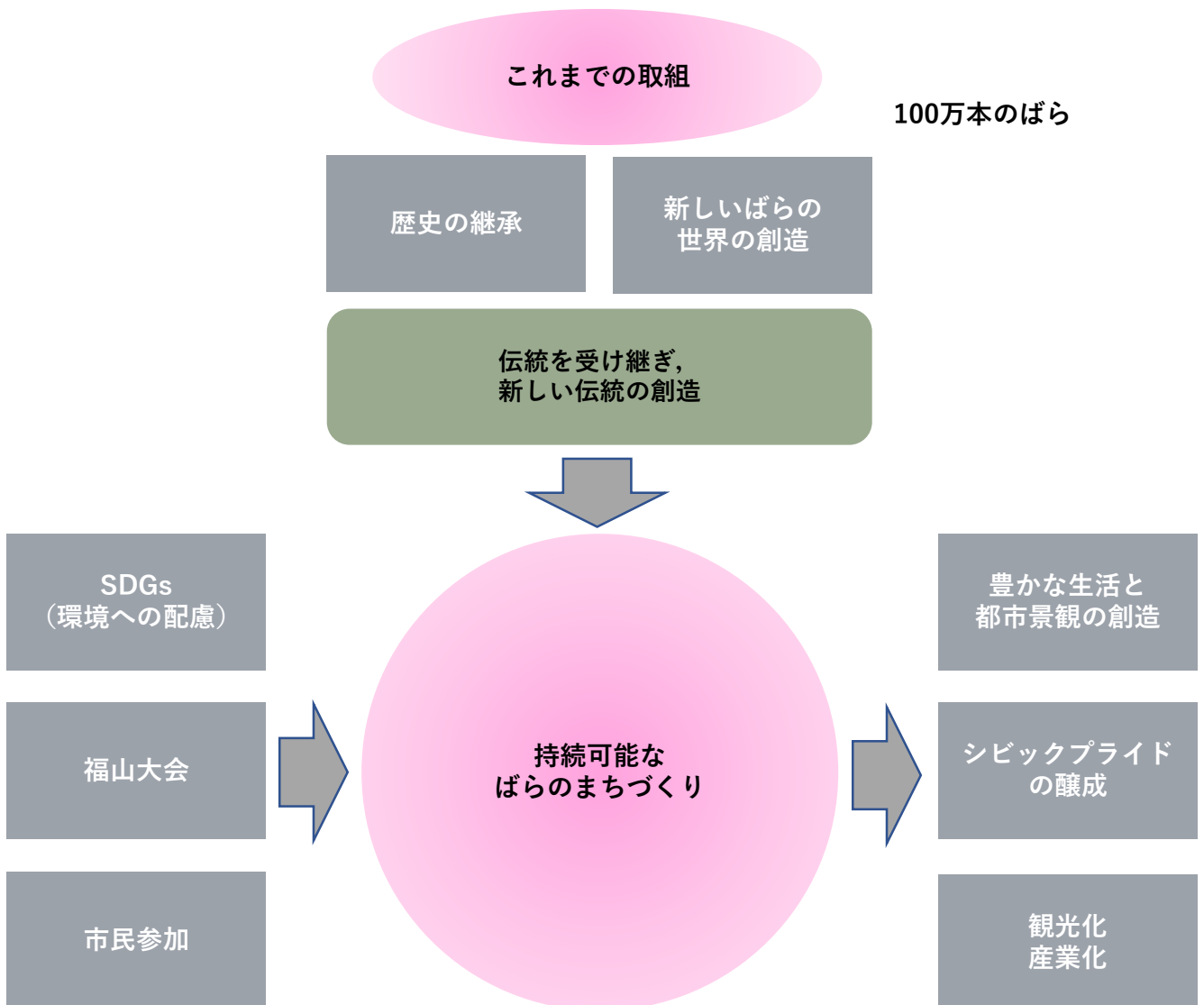
■植栽デザイン計画の基本的な考え方

市政モニターアンケートでも示されたように、ばらへの取組が今後ますます重要になってくる。本市の60年以上に及ぶばらの歴史を踏まえて、未来を見通してまちの魅力を高めるための、「持続可能なばらのまちづくり」の基本的な考え方を明らかにし、植栽デザイン計画を策定する。

また、SDGs推進の機運の高まりや第二次福山市環境基本計画で示す指針を受けて、今後のばらの植栽デザインも環境に配慮していくとともに、福山市ばらのまち条例で示す「世界に誇れるばらのまち福山」の実現をめざす。

■持続可能なばらのまちづくりのめざすもの

- 1 公園や場所の持つ歴史，景観を踏まえたストーリー＝物語の構築
- 2 環境に配慮したローメンテナンスで栽培できるばらの導入
- 3 既存の施設を生かした魅力的な空間の創出
- 4 話題性や独自性を生み出し，観光誘致につながる質の高いデザイン



■市民参加によるばら植栽フィールド調査

本市のばらの現状を明らかにするために、市民参加の観点から市民や有識者により現地調査2回※及び意見交換会4回を実施した。コロナ禍という状況の中でも、対象エリアのほぼ全域を調査し調査結果をまとめた。把握した課題と併せ、調査結果を植栽デザイン計画に反映させていく。

※ 第1回現地調査（JR福山駅前～ばら公園・花園公園・緑町公園）

第2回現地調査（福山市役所東桜町緑地～福山城公園）

■市民参加によるばら植栽フィールド調査から見えてきた課題

- 1 ばら園がばらばらで連続性がない
- 2 ばらの衰弱化と放置されたばら
- 3 土質が悪く、ばらの生育状態が良くない
- 4 ばらの表現が単調
- 5 市民が公共のばらづくりへ参加ができる仕組みがない
- 6 SDGsへの取組（環境に負荷をかけないばらの栽培）

■調査結果を反映した計画の方針

- 1 ばらのまちの回遊性を高める＝物語の創造
- 2 丈夫なばらによるばら園づくり
- 3 ばらの表現力を高める（多様なばらの品種、デザイン、混植）
- 4 全面的な土壌改良
- 5 四季を通じた魅力づくり→観光化
- 6 公共のばらの維持管理に市民が参加できる体制づくり
- 7 ばらの新品種国際コンテストによるタウンスケープローズの収集と情報発信

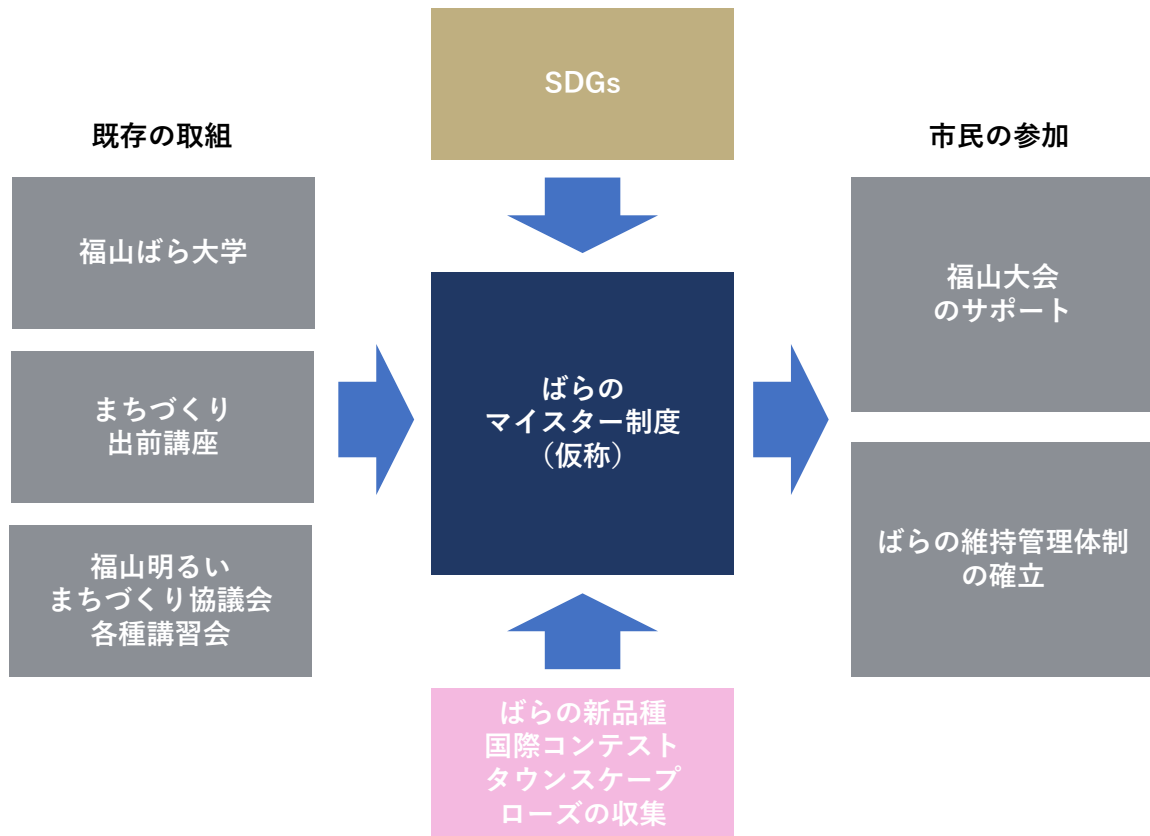
■さらなる展開の可能性

- 1 福山大会を契機とした更なるばらのまちづくりの発展
- 2 市内全域をローズガーデン化し産業化、観光化への取組を推進
- 3 全市民が積極的に取り組めるシステムづくり
- 4 農薬散布を前提としないばらづくり
- 5 歴史、文化としてのばら（福山ミステリーローズ）の活用

■維持管理体制の確立

ばらを育てることは、同時に愛情、思いやり、優しさ、助け合いの心であるローズマインドを育てていくことでもある。ばらづくりに市民が参加することで協働・共創のまちづくりを実践する基盤となり、今後市民が主体となってばらを維持管理する体制を整えていく。その体制づくりには、既存の福山ばら大学、まちづくり出前講座、福山明るいまちづくり協議会による各種講習会などが中核となり、ばらのまちづくりを支える（仮称）ばらのマイスター制度の創設を検討する。

■体制づくり



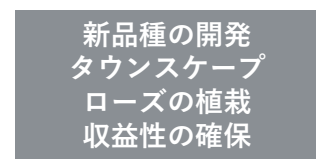
■維持管理の方針



無農薬栽培できるばらの収集
丈夫な品種の選定

水やり
花がらつみ
日頃の手入れ
肥料づくり
(腐葉土, 堆肥)

■新たな方向



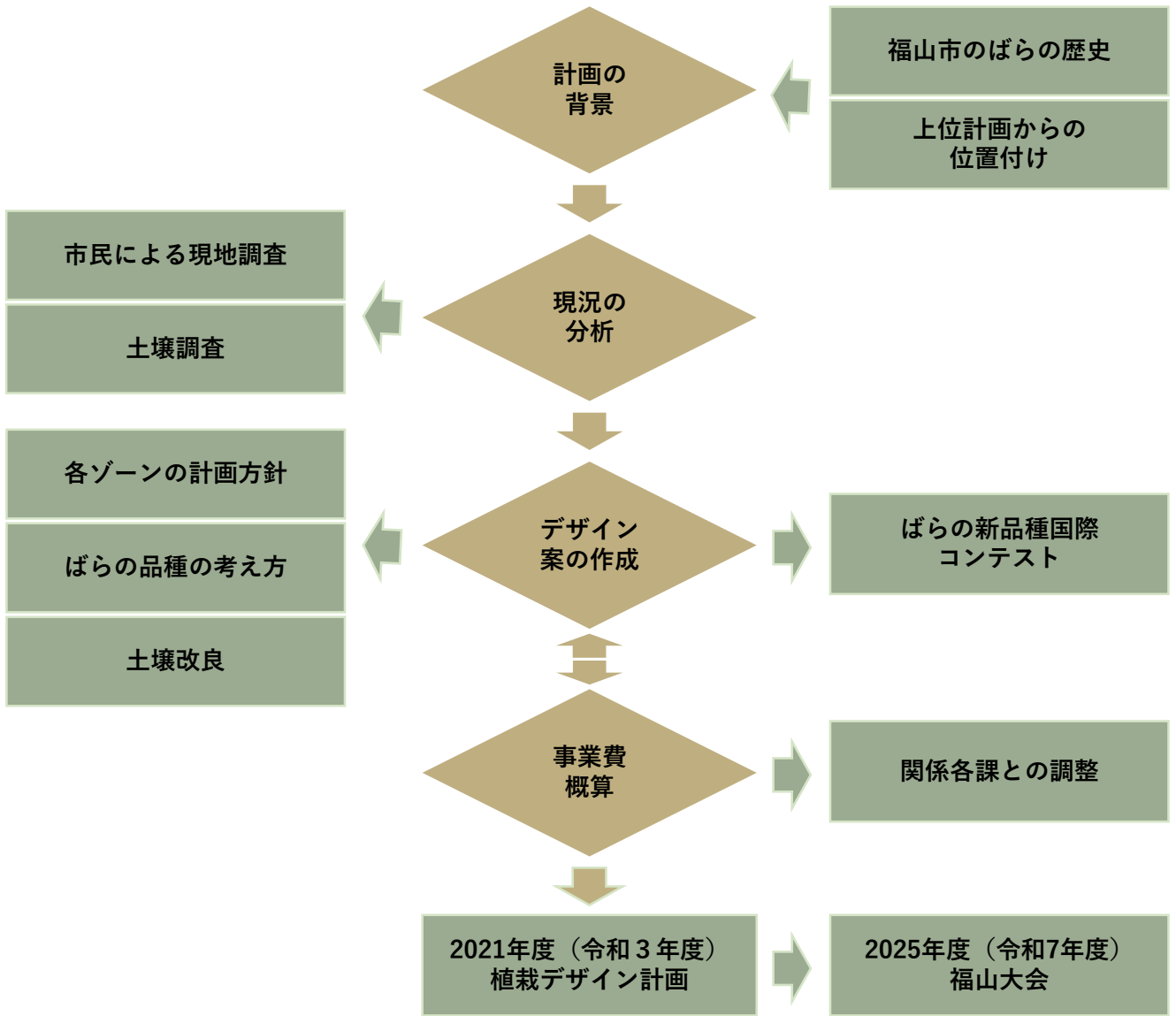
無農薬栽培できるばらの育種
ばらの販売

■タウンスケープローズとは

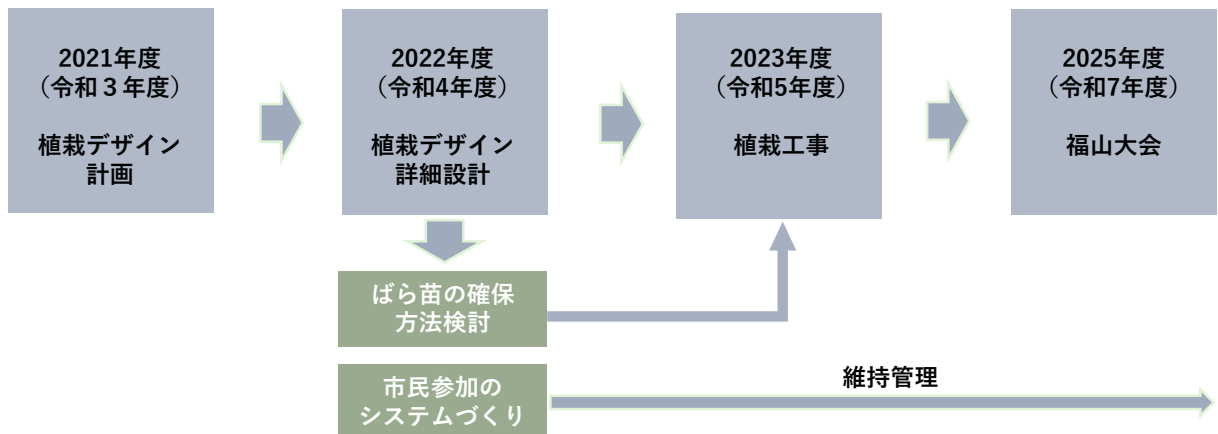
本市の方針であるSDGsを実践できるばらとして、農薬散布を前提としない、誰にでも育てられる、まちなかでの栽培に適した連続開花性などの優れた特性を持ち、まちを彩り豊かな景観を創造するようなばらをここではタウンスケープローズと定義し、まちづくりに生かしていく。

■計画のフロー

次のように植栽デザイン計画のフローを作成し、計画を進めていく。



■今後のフロー



■コンセプト

まち全体にばらが溢れ、ローズマインドを都市景観としてビジュアルに表現するコンセプトを立案する。

■コンセプトシナリオ

60年以上にも及ぶばらのまちづくりの歴史がある本市は、福山大会の開催を機に、世界に誇れるばらのまちの創造をめざす。

同時に社会情勢が大きく変化しており、環境への対応、SDGsへの取組が求められ、ばらへの取組も環境への配慮、SDGsの一環として実践することが必要になってきている。さらに「福山みらい創造ビジョン」で示されている「安心」と「希望」の都市の実現にばらの果たす役割は大きく、長年の福山ばら大学で培われた知識、技術を生かすとともに、市民参画により優れた都市景観づくりに生かしていく。

市内各所に点在するばら花壇を、それぞれの立地を生かし、多様なばらの品種の導入と多彩なデザインにより新たなばらの表現を試みる。

新しい理念でできあがった市内各所のばらの表現は、世界から評価されるとともに、国内のばらの愛好家に新しいばらの時代の到来を提示する。植栽デザインの高い評価は観光開発にもつながり、ばらをテーマとした産業に結びつけていく。

■5つのデザインコンセプト

1 「福山ばら物語」の構築

地域の歴史や現況を踏まえ、その地域に即したデザインを展開し、それぞれを連続させることで「物語」を紡ぎ、本市全体で大きなストーリーを描き出す。

2 空間のデザイン

アーチやポール、フェンスなどにばらを這わせ立体的にばらを演出し、ばらの空間的な魅力を演出する。園芸的なスタンダードローズも多用することで多彩な空間をデザインする。

3 色彩のデザイン

ばらは黒・ブルー系以外のすべての色彩があり、色彩を組み合わせことでカラフルな色彩デザインが可能となり、植栽する場所により組み合わせを変えて色彩的な表現を試みる。

4 時間のデザイン

四季咲き性という優れた特性を持つばらを選び、この四季咲き性を生かしてそれぞれのばら花壇をデザインし、年間を通して楽しめるデザインを展開していく。

5 混植のデザイン

ばら以外の草花や低木を混植することで、表現に厚みを加えるとともに、ばらの花のないシーズンにも草花が花を咲かせ、常緑の低灌木は冬の緑を確保しながら花壇全体の魅力を高める。

■植栽方針

コンセプトに基づき、福山大会開催を一つの指標として具体化する植栽方針を定める。

1 ばらのまちの回遊性を高める

それぞれの特徴を生かしたばらを楽しむための回遊ルートを整備し、市民、観光客も自由にばらが楽しめるようにする。

2 農薬散布を前提としない丈夫なばらの導入

無農薬で栽培可能なローメンテナンスのばらを公共空間に展開することで維持管理の軽減、まちの景観性を高める。ローメンテナンスなばらの選定も重要になってくる。

3 ばらの表現力を高める

ばらの多様な特性とデザイン性（空間、時間、色彩）を駆使してばらの表現力を高める。表現力を高めることで、より大きなばらの価値を創造する。

4 健やかなばらを育む土壌改良

ばらづくりは土づくりと言われるように、根本なところからばらの生育環境を整えるために全面的に土壌改良を行い、健やかなばらを育てあげる。

5 四季を通した魅力づくり

一般的にばらの開花シーズンは春・秋の2回であるが、長期間咲くばらの導入やばら以外の草花や低木の混植により、四季を通して魅力を創り出し、観光化する。

6 公共空間のばらの維持管理に市民が参加できる体制を整える

公共空間のばらの維持管理に市民が参加できるように計画段階から想定し、全体のプログラムを構築する。市民が参加することで市民のばらへの愛情や意識を高める効果が期待でき、参画者を増やす。

7 ばらの新品種国際コンテストによるタウンスケープローズの収集と情報発信

ばらの新品種国際コンテストでは公共空間で栽培可能なばら（タウンスケープローズ）をテーマに審査・表彰し、世界に向けて情報発信をする。そこで入賞したばらを市内のばら園に展開することで、ばら園の持続性を高めることができる。

■エリアの設定と全市への波及

福山大会の開催に向け、「世界に誇れるばらのまち」として世界中の人たちをお迎えするに相応しい環境整備を行うための計画であることを踏まえて、福山大会のメイン会場周辺（福山城公園を含むJR福山駅周辺～ばら公園・花園公園・緑町公園及び園芸センター）を計画エリアとして設定する。

福山大会以降も、この植栽デザイン計画で示されたばらの新たな表現方法を含めた植栽方法や考え方を全市へ波及し、持続可能なばらのまちづくりにつなげる。

■「福山ばら物語」を紡ぐ3つのばらのゾーン

それぞれの地域の特性を生かして福山城のある「ばらと城（歴史文化）のゾーン」、商店街のある「ばらの賑わいゾーン」、ばら公園を中心とした「ばらのシンボルゾーン」の3つのゾーンエリアに区分し、各ゾーンごとに計画の方針を定め、全体としてばら物語を紡ぎ出す。

■3つのゾーン構成



ばらと城（歴史文化）のゾーン

福山城を中心としたゾーンで、ふくやま美術館、広島県立歴史博物館があり、優れた景観を有している。この歴史的、文化的景観と調和するようなばら園を計画する。

ばらの賑わいのゾーン

JR福山駅からローズロードを経て中央公園に至るゾーンで、市街地にばらが植っている日本でも珍しいゾーン。福山駅前には現在の植栽されているばらに立体的な演出を加える。街路はばらのないところにローメンテナンスなばらを植栽する。

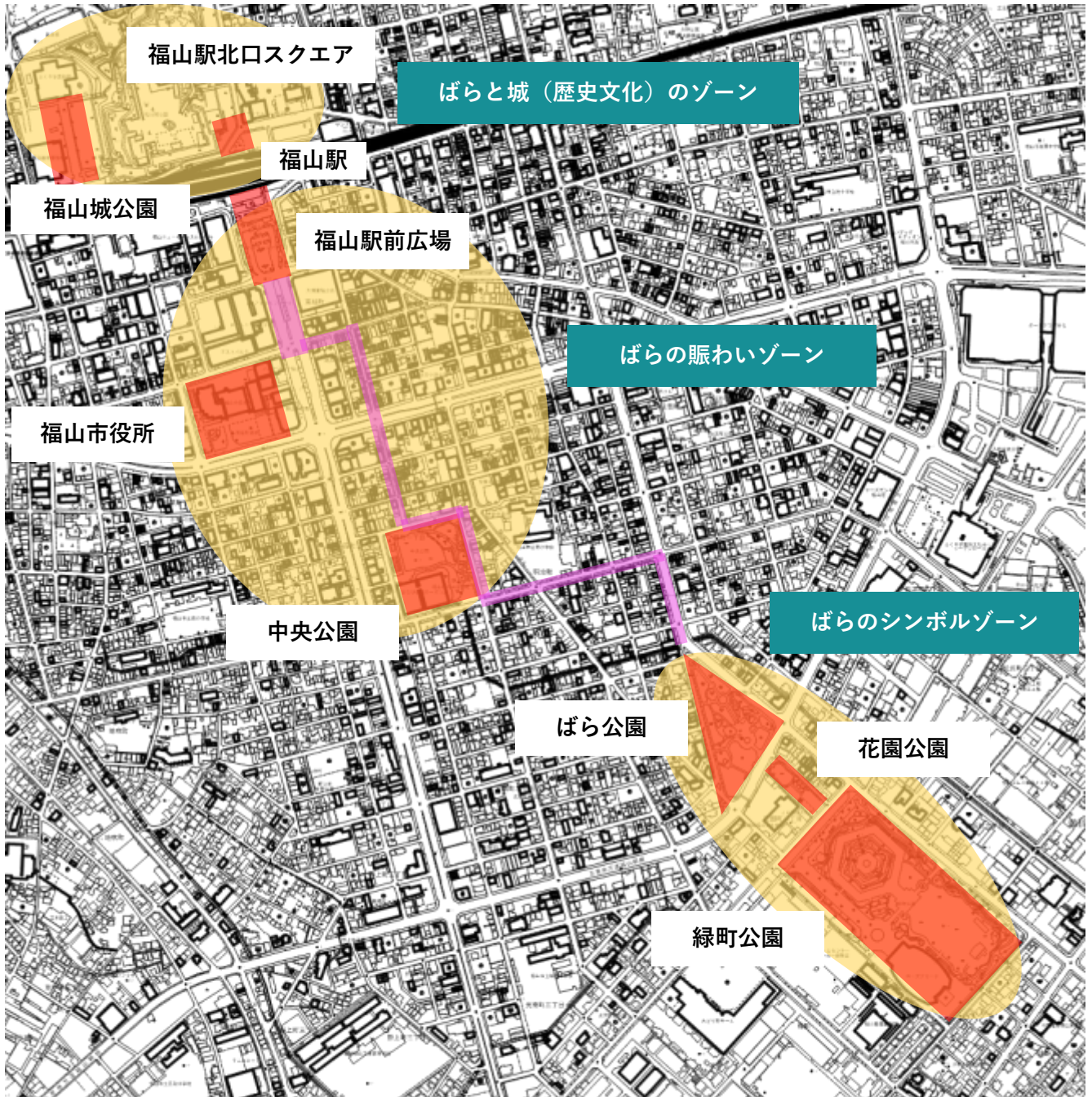
ばらのシンボルゾーン

ばら公園、花園公園、緑町公園をシンボルゾーンと位置づけ、ばらの表現力を高め、全体で一つの大きなばらのエリアとして計画する。

■連続する3つのばらゾーン

それぞれのゾーンの既存の公園や街路を再整備する。「ばらと城のゾーン」、「ばらの賑わいゾーン」、「ばらのシンボルゾーン」の3つのゾーンエリアをローズロードで結びつけ、まちいっぱいのばらを演出し、市内を歩く楽しさを創り出す。

■3つのばらゾーン



ゾーン計画



ばらの拠点



ローズロード

■各ゾーンの整備方針

「福山ばら物語」を実現するために3つのゾーンの各所の具体的な方針を決定する。それぞれの場所の方針は連続性を考慮することでより一体的なつながりをもたせる。ばらの物語のストーリー性を明確にするために、それぞれにばらに因む愛称をつけることで市民に親しんでもらえるようにする。

■現況

ゾーン	場所（愛称の例）	改修の方向性
ばらのシンボルゾーン	ばら公園 （ふくやまシンボルローズガーデン）	シンボルゾーンの中核となるガーデンとして再整備する。多様なばらの表現（香り、立体、多品種）により魅力的なデザインとする。
	花園公園 （花園ローズガーデン）	ばら公園と緑町公園の連続性を演出するために、フェンスなどにばらを這わせ立体的にデザインする。広場周辺はばら公園のばらを移植する。
	緑町公園 （緑町ローズガーデン）	市民が創る記念のばら回廊として、小川の流れ沿いにばらを植栽する。ローズヒルの頂部、既存のパーゴラを利用してばらの野外ミュージアムを計画する。
ばらの賑わいゾーン	福山駅前広場 （ローズステーション）	福山駅前のばらシンボルゾーンとして立体的にばらを演出する。将来構想が進んでいるので、移設が可能な計画とする。
	街路 ローズロードほか	ローズロードの植栽可能なところにばらを植栽し、ばらが咲き誇る街路として整備する。
	福山市役所周辺 （市庁舎ローズガーデン）	市役所本庁舎の改修工事に伴い、ばら花壇を再整備する。
	東桜町緑地 （東桜町緑地ローズガーデン）	道路からでもばらが見えるように再整備する。
	中央公園 （中央公園ローズガーデン）	ローズロードの中心に位置するため、ルート上にばらを植栽する。
ばらと城（歴史文化）のゾーン	福山城周辺 （古（いにしえ）のばら園）	福山城周辺を歴史と調和する古いばらの品種（ミステリーローズ）によるばら園の整備を検討する。ふくやま美術館前のアプローチもばらの演出も検討する。
	福山駅北口スクエア （ローズステーション）	福山駅から出た途端に「ばらのまち」を強く印象付けるため、芝生広場の中に「ばらのゲート」や「ばら花壇」を配置し憩いの空間を創出する。

■ばらのシンボルゾーンのデザイン

ばら公園、花園公園、緑町公園の3つの公園を一体的なばら園として整備し、本市のばらの中核的なローズガーデンとして計画する。ばらの植栽を増やし、それぞれの立地的特徴を生かし魅力向上を図っていく。

■現況



■計画案：連続性とばらの充実



■現況

ばら公園



花園公園



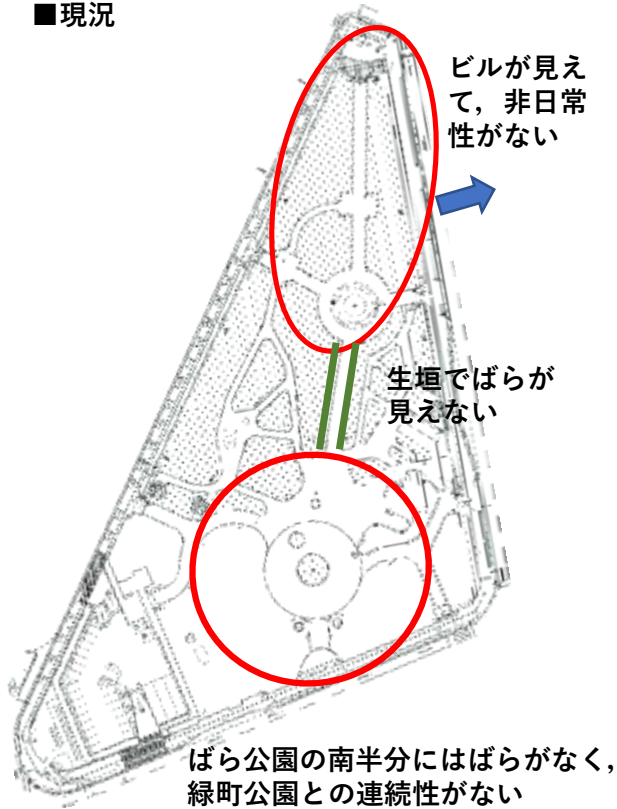
緑町公園



■改修の基本的な考え方

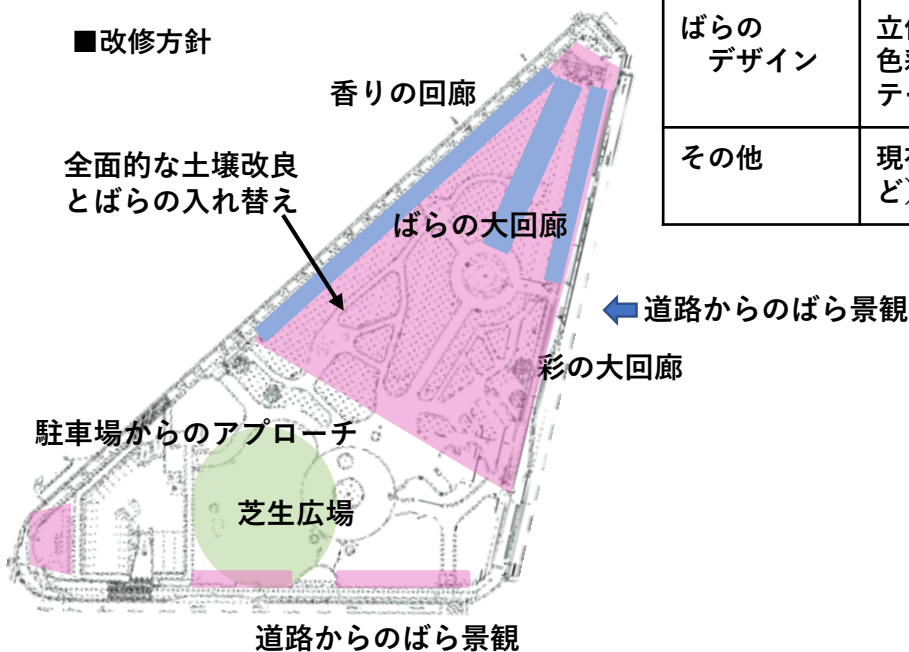
土壌の劣化，ばらの老木化が進んでいて，再生には全面的な改修が必要である。ばらの表現もハイブリット・ティー，フロリバンダが中心でやや単調な景観である。したがって新たな品種の導入やアーチなどの立体的な造形により空間的な変化，色彩のハーモニーをデザインする。散策路を張り巡らせ，ばらを身近に感じられるように工夫する。既存のばらはまとまった場所に植栽し重点管理を行う。

■現況



現況	本市を代表するばら園であるが，やや世界のばら園の潮流から遅れている。ばらに触れ合える感じがしない。観光的名所としての認知度が低い。南半分にはばらが無い。
課題	ばらの一部の老木化が進行している。土壌の劣化が進んでいる。同じ系統のばらだけが植栽されており表現が単調である。園路が単調でばら園の滞在時間が短い。憩える場が少ない。
計画方針	これからを見据えたシンボルガーデンとして再整備する。多様な表現により魅力を高める。テーマ性，立体感，回遊性を高める。ローメンテナンスなばら，多様な品種を植栽する。ローメンテナンスで維持可能にする。ハイメンテナンスなばらも効果的に配置する。憩える場を増設する。ばらを身近に感じる散策路を増設する。南側，芝生広場にばらを植栽する。全面的な土壌改良を行う。
ばらのデザイン	立体感：アーチ，オベリスクなど 色彩感：花の色彩による表現 テーマ性：香り，国別，系統別など
その他	現在のばらは重点管理（薬剤散布など）の可能なところに移植する。

■改修方針



■変化に富むデザイン

現在のばら公園は平面的で変化に乏しいので、アーチなどの造形物によりばらを立体的に表現し、変化のあるばら園としてデザインする。ばらと触れ合えるように植栽地に細園路をめぐらせる。また植栽地は管理が容易なようにメンテナンスゾーンを規則的に配置する。

■ ばらの立体的な表現

香りのばらの連続するアーチ

シンボルとなる中央の回廊

道路からの景観を演出



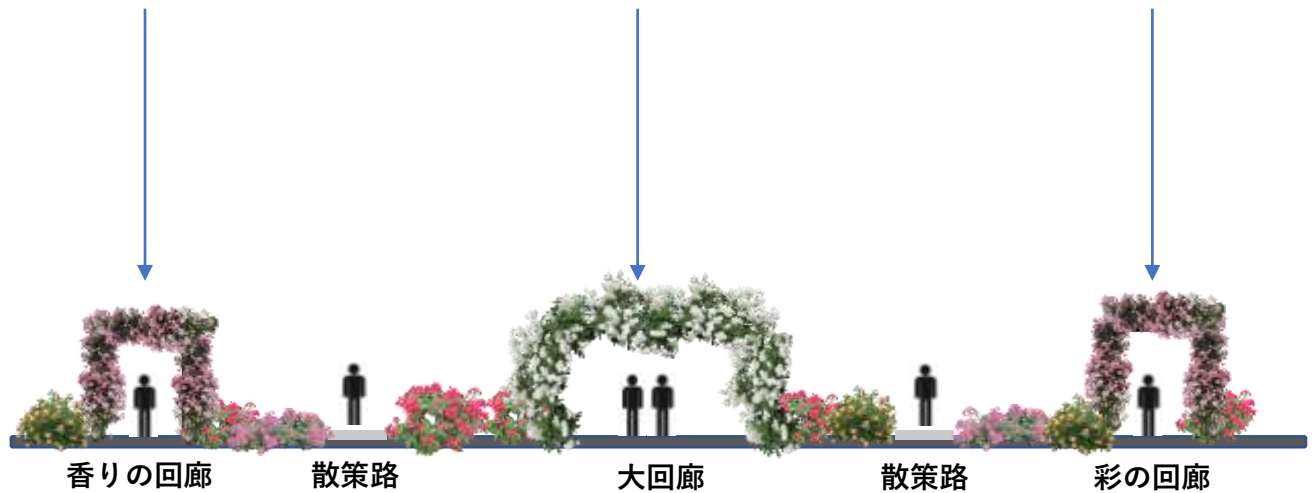
香りの回廊



ばらの大回廊



彩の回廊



ばらの散策路（管理用通路）
ばら園の中を自由に散策



ばらのアーチのデザイン

現況



■大回廊のイメージ



現況



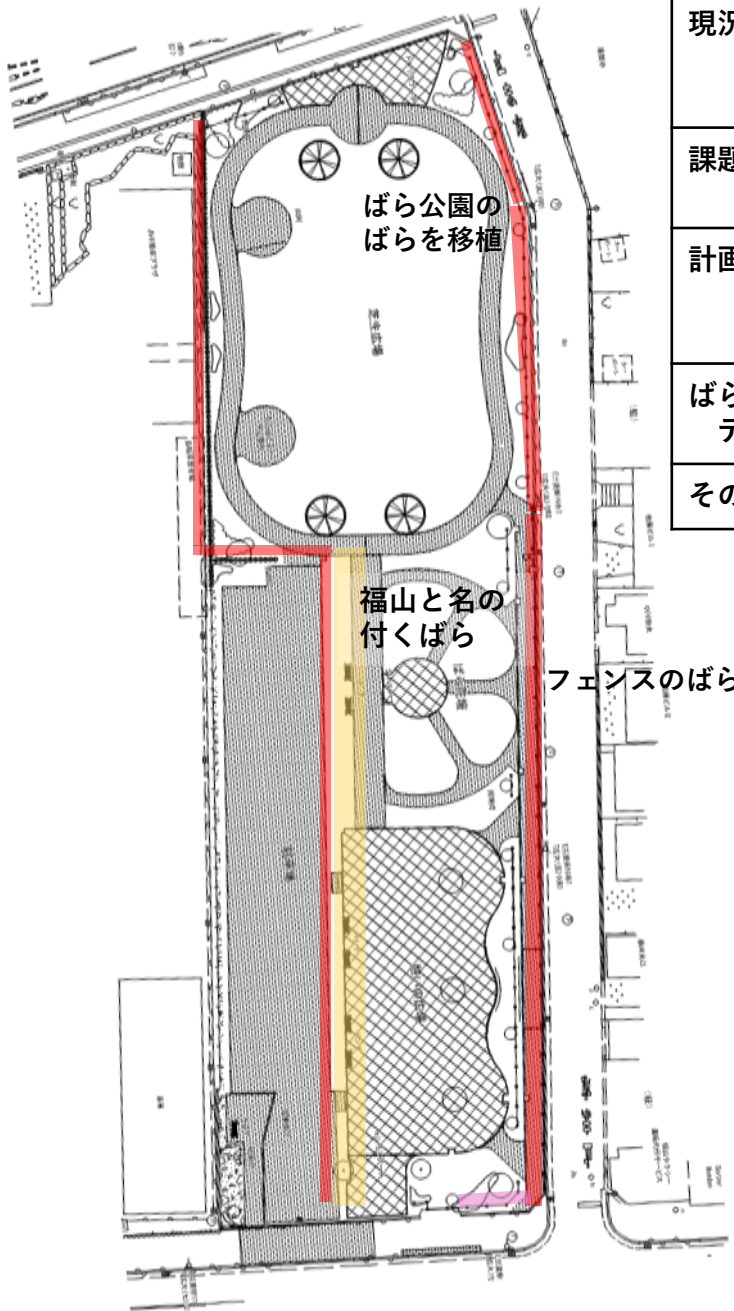
■道路側のイメージ



■改修の基本的な考え方

花園公園は部分的にしかばらが植栽されておらず、ばら公園と緑町公園を結び、連続性を創り出していく。公園の両サイドのフェンスに丈夫なつるばらを植栽し、立体的な連続感を生み出す。また植栽帯の一部にばら公園からのばらを移植することで、ばら公園との連続性を高める。

■現況



現況	ばら公園と緑町公園を結ぶところにあるが、ばらの植栽は一部だけで、ばらの連続性がない。
課題	ばら公園と緑町公園の連続性が感じられない。
計画方針	フェンスを利用し立体感を演出をする。 ばら公園のばらを移植する。
ばらのデザイン	フェンスを利用した立体的なデザインとする。
その他	ばら公園のばらを移植する。

■フェンスのばら



現況

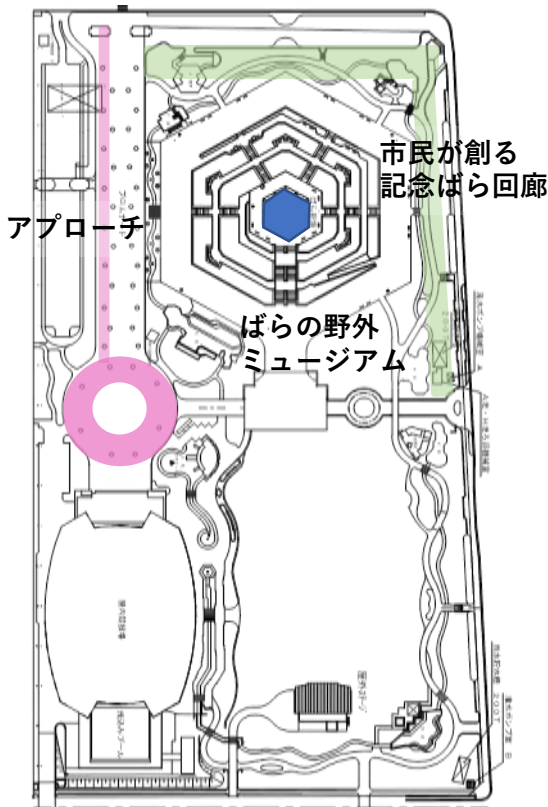


イメージ

■改修の基本的な考え方

緑町公園は、福山ばら祭が開催される本市のばらの中核公園の一つであるが、ローズヒルだけにしかばらがなく、シンボルゾーンの一翼を担うばら園としてばらの充実を図っていく。樹木帯の光の当たるところに野生種のばらと、ローメンテナンスで栽培でき、大きく成長するばらを市民が植栽する。ローズヒルの頂部のパーゴラを活用して、福山のばらの歴史やばらに関する展示により、学ぶことのできるばらの野外ミュージアムとして計画する。

■計画案



現況	各種イベントが開催できる屋内競技場などがあり、水泳場の増設も計画されている。 ばらのオーナー制度によるローズヒルがあり、5月に福山ばら祭が開催される。
課題	全体としてばらの印象が薄い。
計画方針	公園の周辺を流れる小川に沿ってばらを植栽し、公園全体でばら表現する。風景に馴染む野生のばら園と市民が植樹する記念ばら回廊を計画する。ローズヒルの頂上の休憩所をばらの野外ミュージアムとして計画する。
ばらのデザイン	他のばら園にはない日本の野生種のばらを小川に沿って植栽する。広場の周りを華やかなばらで彩る。
その他	野生のばらは、他都市のばら園などにも協力を依頼する。

■記念ばら回廊のばら(イメージ)



スプリングバル



ギスレーヌ・ド・フェリゴンド



ドロシーパーキンス



ミヤコイバラ

■改修の基本的な考え方

現在のパーゴラに展示パネルを設置し、福山のばらの歴史やばらに関する情報をわかりやすく解説する。パーゴラを覆うばらは、登はん性の高いランブラーローズを用いる。

■ばらの野外ミュージアムのイメージ



屋根を覆うことのできるばらの品種



パークス・イエロー・ティー
センテッド・チャイナ



春風



フランソワ
ジュランビル

事例：一本のばらが屋根を覆う



■改修の基本的な考え方

このゾーンはJR福山駅から市街地の中心部で、既にばらが植栽されており、ばらのまち福山の玄関口、顔になっているところである。現況を生かしつつ、植栽の可能なところにばらを植栽し、さらにばらのまちのイメージを強化する。駅前には「福山駅周辺デザイン計画」が進行しており、将来的にばらが移植可能な計画とする。

■現況



■計画案



■JR福山駅前

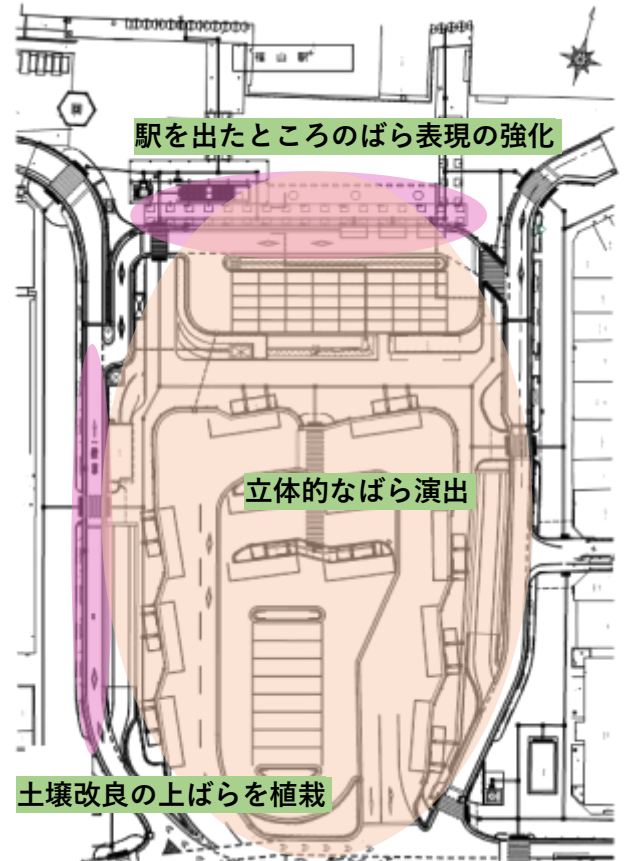


■改修の基本的な考え方

JR福山駅前広場は本市を代表する都市景観であり、他都市に例のない優れた公共空間である。このばら園をバージョンアップし魅力度を高めていく。福山駅前は全体の改修が計画されており、今回の改修計画は移設が可能なものとする。デザインとしては既存のばらを残しつつ、立体的な表現を加える。

■植栽計画

現況	福山駅前にばら植栽のある世界にも稀な駅前広場である。 再整備が予定されている。
課題	手入れは行き届いているものの、駅を出たところにはばらが少なく、ばらの印象が薄い。
計画方針	福山駅前のばらを演出し、立体感を創出する。 オベリスク、スタンダードローズを追加する。
ばらのデザイン	既存サークル内に、立体的なばらを植栽する。 スタンダード、オベリスクによるばらで立体的に魅せる。 草花とばらの混植とする。
その他	西側の道路に沿った植栽帯に植物が育ちにくいゾーンがあり、土壌改良が必要である。



■南口のイメージ



現況



既存のサークルにばら

タクシー乗り場のポールにばら
(仮設)

■福山駅前西のイメージ



現況

植物が生育不良



土壌改良を施すことでばらの栽培が可能になる

■改修の基本的な考え方

東桜町緑地と北側広場，及び市役所周辺のばら植栽を市役所ローズガーデンとして位置づけ一体的に整備する。率先して「ばらのまち福山」の拠点化を推進し，「ばらの市役所」とすることで「ばらのまち福山」のイメージを醸成する。

■植栽計画

現況	市役所庁舎の3方にはばらが植栽されている。
課題	東桜町緑地のばらは樹木が茂り，ほとんど見えない。 高木で日陰になり，生育が悪いところもある。
計画方針	日陰地を除き，東桜町緑地と北側広場のばらの花壇を主に改修する。
ばらのデザイン	立体感のある演出で，視認性を高める。 ローメンテナンスなばらにより，維持管理費を軽減する。
その他	職員が手入れを行い，ばらに親しむ体制を整える。

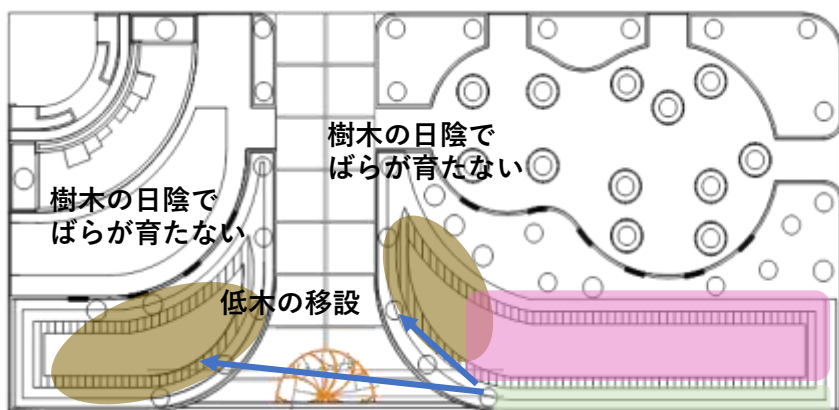
既存ばら園の改修



■市役所ローズガーデンの構成



■東桜町緑地



低木が茂っているのではばらが見えない

現況

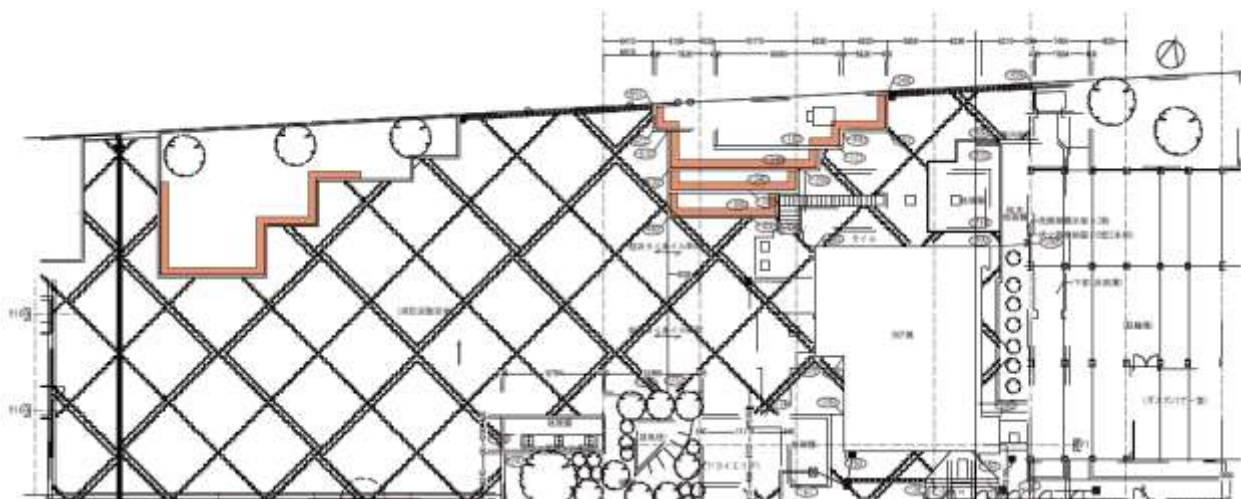


ばらの生育不良

イメージ



■北側広場



■改修の基本的な考え方

回遊性を高めるために、街路の植栽帯で可能なところにばらを植栽する。また植栽帯のないところは、仮設でばらのコンテナを置くなど工夫を凝らしてばらの回遊路を形成する。

■街路のばらの現況

街路のばらは生育不良で、老木化しているものが見受けられる。これらの原因は土壌と植栽している品種が主な原因であると考えられる。特に品種に関しては丈夫に育っている品種もあることから、品種の選定に課題がある。また一部のコンテナ植栽では一年草が足元に植栽され、ばらが無い季節でも演出次第で豊かな景観が形成できることがわかる。



ばらを植栽する場所のない商店街



仮設によるばらのコンテナを設置



換気塔



コンテナの植栽

ばらの植込みの下に草花が植栽されている。

■道路景観として優れたばら

夏の暑さで花も少なく、葉も落としているばらも少なくない中で、一面に花を咲かせ、葉も青々と茂っているばらがある。



ノックアウト



ホワイトノックアウト



ブラッシュノックアウト

■植栽計画

現況	街路にはばらを植える場所が限定されている。 福山駅からばら公園へばらが連続しない。ばらの生育が良くない。
課題	ばらの連続感の表現が乏しい。 土壌が悪い。街路でも育つばらを植栽する必要がある。
計画方針	土壌改良を行う。 ローメンテナンスなばらを植栽する。 植栽可能なところにばらを植栽する。
ばらのデザイン	景観的な連続性を重視し、可能なところには立体的な表現とする。
その他	福山駅周辺デザイン計画を考慮する必要がある。

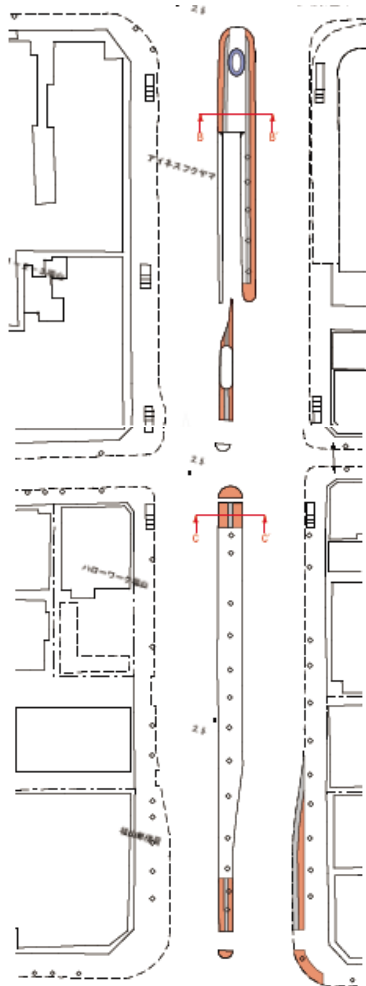
イメージ



幅の広い植栽帯

現況

計画案



ばらの植栽可能な植栽帯



一般国道2号沿い

■基本的な考え方

街路にばらを植栽するスペースは限られているので、福山ばら祭などイベント時に、市民が栽培した花の咲いているばらのコンテナを持ち寄りコンテスト形式で街路を装飾し、ばらのまちのイメージを創る。

■市民参加のばらコンテスト

計画方針	ばらを街路に展示しコンテストを開催。コンテストは市民が栽培したばら（個人、チーム）を、一般公募し、道路沿いに展示する。
ばらのデザイン	市民がコンテナで栽培したものを各所に展示，市民が飾り付けを行いコンテストする。
その他	評価：たくさん花をつけているばらを組み合わせて評価する。
課題	主催者及びコンテスト方針の検討が必要である

■コンテナでコンテストを開催している事例：インドコルカタ市ばらコンテスト



■街路にばらをコンテナで栽培している事例
長野県伊那市「バラ咲く街角」



伊那市の中央商店街約2kmに1,000株のばらをコンテナで栽培している。里親制度でばらは維持管理しており、市は製作費の半額を補助している。

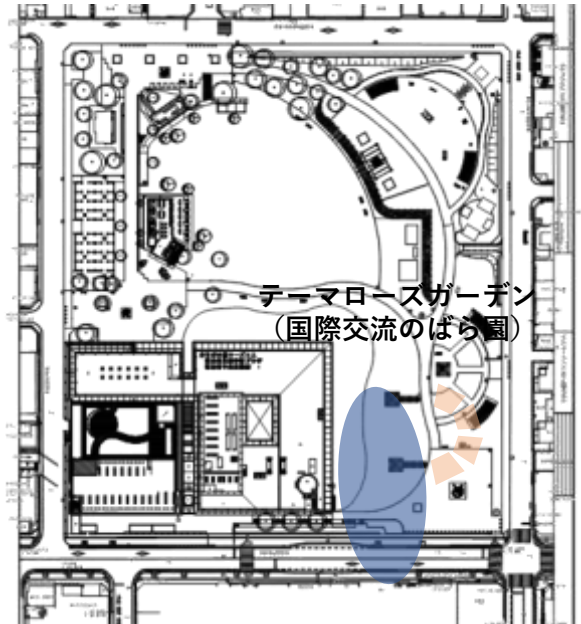
各地からコンテナのばらを持ち込み、コンテストを行う。

■改修の基本的な考え方

中央公園は、福山駅からばら公園に至る中間点に位置し、ばらの回遊性を確保する上で重要な公園である。この公園のばらの魅力を高めることが、ばらのまちづくりにつながる。

■中央公園

現況	ローズロードの中心に位置しているが、ばらの植栽は限定的である。
課題	ばらの生育状態が良くない。 土壌を改良する必要がある。 ローズロードとの連続性がない。
計画方針	ローズロードの延長としてばらの充実を図る。 国際性のあるテーマガーデンを仮設 (案：大使夫人のばら園)
ばらのデザイン	既存のばら花壇にローメンテナンスなばらを植栽する。
その他	



■国際交流のばら園（福山大会時）

各国の大使、大使夫人のガーデンを広場に制作する。



アメリカ大使のガーデン



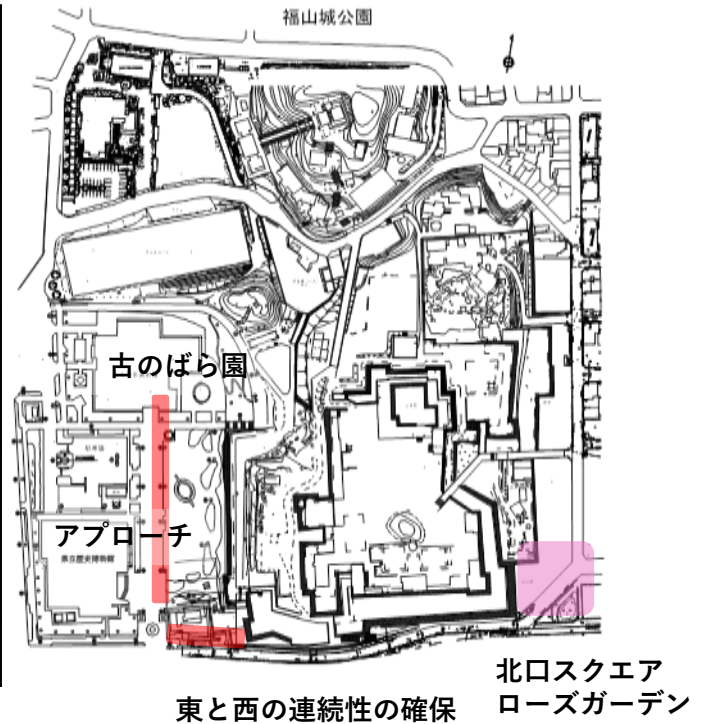
アイスランド大使夫人のガーデン

■改修の基本的な考え方

福山城，広島県立歴史博物館，ふくやま美術館などのある文化歴史ゾーンである。また豊かな緑もあり，景観的にも優れた地域である。福山城を臨むロケーションに，日本に古来からあった（明治時代以前）と考えられるミステリーローズを植栽し，景観的な調和を図りつつ，福山城博物館とともに，歴史を感じながらばらの歴史を体感できる植栽デザインを検討する。

■福山城周辺

現況	福山城，広島県立歴史博物館，ふくやま美術館のある歴史文化ゾーンであるが，部分的にしかばらは植栽されていない。
課題	福山城史跡内はばらが植栽できない。歴史文化としてのばらの表現の方法を検討する。
計画方針	メインルートである北口スクエア及び広島県立歴史博物館，ふくやま美術館周辺にばら園を計画する。
ばらのデザイン	古（いにしえ）のばら園：江戸時代から伝わるばらを収集し植栽する。 アプローチ：ローメンテナンスなばらにより通期的にばらを咲かせる。
その他	



■文化ゾーン



ふくやま美術館



福山城



広島県立歴史博物館



ふくやま美術館へのアプローチ

■基本的な考え方

一般的にばらは、西洋の花であると考えられている。しかし華麗な花を咲かせるモダンローズは、日本、中国のばらの交配により作出された品種であり、東洋のばらが無ければモダンローズの美しい花は存在しなかった。日本には明治維新以降に西洋からもたらされたモダンローズ以前から、ばらが栽培されており、古くは源氏物語に「薔薇（そうび）」として記載され、狩野探幽、尾形光琳、円山応挙といった江戸時代の著名な絵師のほとんどはばらを描いており、福山藩5代藩主の阿部正精もばらを描いていた。このような古い時代の由来のわからないばらをミステリーローズと称している。

明治以前の絵画に描かれたようなミステリーローズは全国各地で発見されており、本市でも廉塾や民家で発見されている。福山の歴史とも関連するミステリーローズを収集し、福山のばらの歴史を顕彰するばら園を古（いにしえ）のばら園として計画する。

■古（いにしえ）のばら園のイメージ



ミステリーローズの特徴

中国原産のチャイナ系、ティー系のばらが殆んどで、放任栽培で何十年も生きながらえる。本市では次の3品種が発見されている。

■本市のミステリーローズ



福山の民家に咲いていたばら



福山藩5代藩主阿部正精の描いたばらに似ている



廉塾に咲いていたばら



道路の植栽帯に咲いていたばら



平田玉蘊の描いたばらに似ている



ミステリーローズ“福山茶山薔薇”



道路沿いに咲いていたばら

■改修の基本的な考え方

福山駅北口スクエアは、福山駅と福山城の間にある空間を福山城公園と一体的に利用可能な広場として整備している。

福山城口を訪れた方々に「ばらのまち」が感じられるよう広場を彩り、福山城とばらがツーショットで撮影できるばらのゲートなどを設置している。

イメージ

■福山駅北口スクエアローズガーデンの計画方針

1 無農薬栽培

SDGsの実践として、無農薬栽培、ローメンテナンスで栽培できるばらを選定。

2 福山城の景観と調和

駅前の広場空間と福山城の景観と調和するばら園のデザイン。

3 ばらの特性を生かす

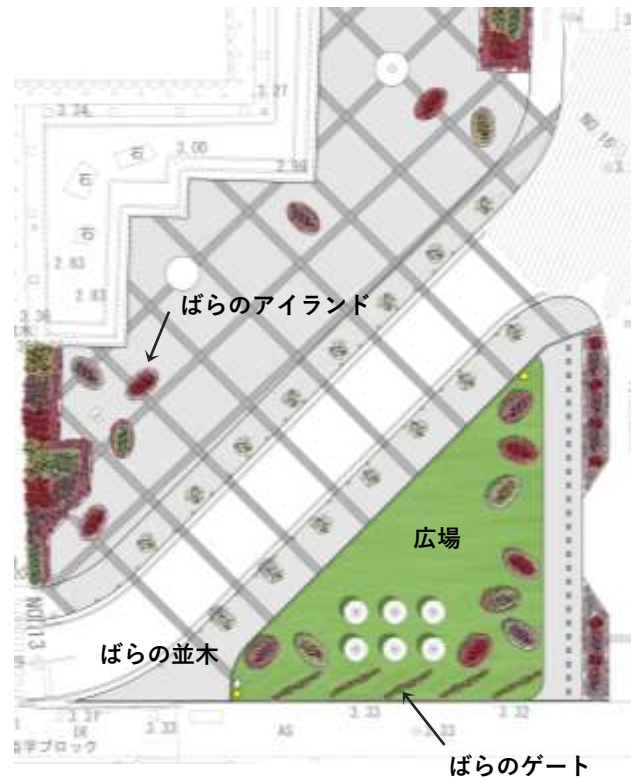
長い花期、カラフルな色彩、多様な樹形など、ばらの特性を生かしおもてなしの空間をデザイン。

4 モデル公共ばら園

無農薬栽培、優れたデザイン性により、今後の公共ばら園のモデルとなる。

5 草花との混植

ばらだけではなく、宿根草なども混植し、一年を通して魅力あるばら園をデザイン。



■福山駅北口スクエアローズガーデンのイメージ



整備前



イメージ

■基本的な考え方

福山市園芸センター（以下「園芸センター」という。）は、瀬戸内海を望む丘陵地に果樹園などの実習農園やばら園などの公園が整備されている。

福山大会の大会記念ばらを創出するため、このばら園をSDGsの理念に合致する「未来のばら」を発掘・育成する「ばらの新品種国際コンテスト」の園場として整備し、活用する。

また、福山大会開催を契機として、幅広い層にアピールするばらの新たな価値創出のあり方について、新たな拠点づくり、観光化、産業化等の視点も含め、今後、検討する。



■園芸センターの現況



■現状の基本的な問題

ばらの花は美しく世界でもっとも人気のある花であるが、ばらの栽培は他の植物と比較して維持管理に手間がかかる。維持管理には、そこには住民が参加する余地があり、協働の深化という本市の方針とも一致するが、担い手の高齢化に伴い、ばらを栽培するための課題も多く存在する。

本市の現状を鑑み、次の課題を解決する植栽デザインを求めていく。

1 土の課題

ばらづくりでもっとも重要だと考えられているのが土づくりである。長年同じ場所ではらを栽培していると、有機物は分解され土壌は劣化していく。土壌の劣化を防ぎ、つねに有機質土壌を保つことで健全なばらを育てることができる。有機質土壌を保つことで団粒構造が促進され、保湿性、排水性、保肥性、さらに微生物の繁殖を促がすことで、ばらの根からの栄養素の吸収を高め、肥料や農薬の散布を減らすことが可能となる。

2 ばらの品種の課題と多様性

ばらのまちづくりとして、美しい景観を形成するためにはばらの多様な品種選定が重要となる。ばらには多様な系統があり、さらにその下には多様な品種群がある。福山のばら栽培の特徴はほとんどがハイブリッド・ティー、フロリバンダに限られていることにあり、特にハイブリッド・ティーは農薬、施肥などのハイメンテナンスが不可欠である。近年、特にヨーロッパでは環境問題がクローズアップされており、無農薬で栽培できる品種も作出されている。

この植栽デザイン計画では、ばらの多彩な表現により、まちの景観を見応えのあるデザインとし、無農薬で栽培できるばらを植栽に取り入れることで、丈夫で育てやすいばらづくりをすることを可能にする。

■現在のばらの生育状況



夏に花と葉がないばらが多い



ばらが育たない場所



老木化した株

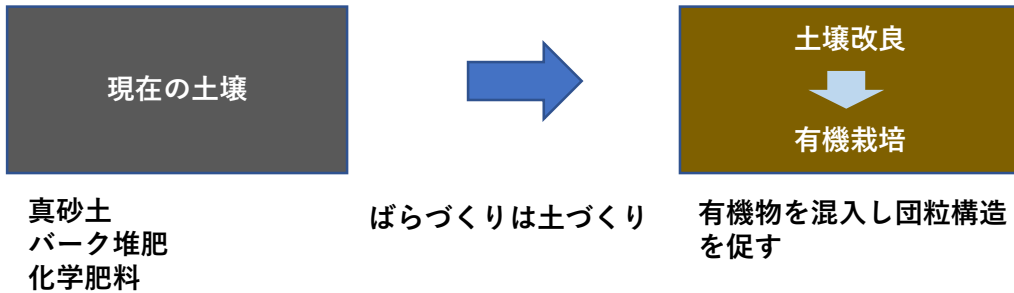


衰弱した株

■土壤改良の方針

現在の植栽帯の土壤は真砂土が主で、排水性、保肥性、通気性が悪く固まる性質がある。土壤改良のめざす方向は、有機物に富み、土が柔らかく、ミミズが住む土壤である。動物糞をすき込むことで改良することが可能であるが、そのためには2~3年の時間が必要である。

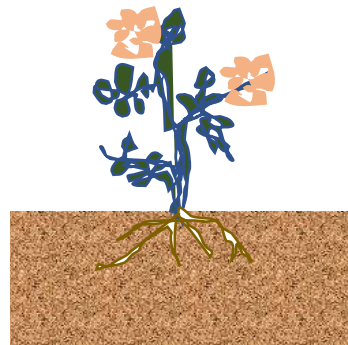
この植栽デザイン計画ではまず土壤改良剤を投入し、土質を改良、畜糞堆肥や腐葉土をすき込むことで短期に土壤を改良する。



真砂土



土質が均質で固まりやすい
排水性、保肥性、通気性が悪い



根の張りが弱い
生育が悪い
花付きが悪い
病害虫に弱い

団粒構造の土



ふかふかした土でミミズが
いるかが判断の基準



根の張りが良い
生育が良い
花付きが良い
病害虫に強い

■ばらの品種選定の基本的な考え方

植栽する場所の特性に合わせてばらを選定する。街路や公共空間に隣接する場所では、第二次福山市環境基本計画に則り、無農薬栽培できるものを中心に行う。公共空間では、特に一輪の花の美しさではなく、ばら全体でばらの美しさが表現でき、一年を通して連続開花する品種を選ぶ。ここでは無農薬で栽培可能で、連続開花性があり、コンパクトにまとまるばらをローメンテナンスなばらとして位置づけ、これらのばらを中心に選定する。

それぞれの公園には、公園のコンセプトに沿ってばらを選定する。

■ローメンテナンスなばらとは

病気に弱いばら



株の衰弱化
花が咲いていない



無農薬で栽培可能なばら

病気に強いばら



同じ時期
街路でも美しく咲いているノックアウト

本市では第2次福山市環境基本計画において、SDGsに具体的に取り組み、本市の環境問題の解決に向けて、市民、事業者、行政が一体となって行動するとあり、市の花であるばらについても、環境に負担をかけず、優れた都市景観を創造するばらが求められる。

ローメンテナンスなばら

無農薬、ローメンテナンスで栽培できる。

一年を通して連続開花性がある。

たくさん花を咲かせ、まちなかでも見応えがある。

樹形がコンパクトにまとまり、剪定回数が減らせる。

真夏も葉が落ちることがない。

■一般のばらとローメンテナンスなばらの比較

一般のばらとローメンテナンスなばらの違いを比較すると、一般的なばらは主に鑑賞に供するばらであり、それに対してローメンテナンスなばらは公共空間で美しさを発揮するばらといえる。

現在、主流のばら	ローメンテナンスなばら
	
HT, FL	系統は問わない
近景でばらを楽しむ	中継、遠景でばらを楽しむ
大輪であっても花数が少なければ、まちの中では目立ちにくい	花の大小より、花が一面に咲くことがまちの景観を演出する上で重要
街路という悪環境で、無農薬栽培で生き抜くことは難しい	街路で、無農薬栽培、最低限の手入れで花を長期間咲かせる
薬剤散布が不可欠	基本、薬剤散布を必要としない

■ローメンテナンスなばらの品種

放任栽培が可能（剪定、施肥など不要）		無農薬栽培は可能であるが、一般的な維持管理は必要
野生種	古代種（ミステリーローズ）	園芸種（多花性、連続開花性）
 ツクシイバラ	 “福山茶山薔薇”	 ノックアウト
 モッコウバラ	 “福山雅”	 ブラッシングノックアウト
 ナニワイバラ	 “福山太白”	 リモンチェッロ

使用するばらの主な品種

ローメンテナンスなばら		色	香り
ばらの系統	品種		
シュラブ	キャンデア・メイティランド	R	
	ラベンダー・メイティランド	P	
	フロキシ・ベビー	P	
	リモンチェッロ	Y	
フロリバンダ	プロログ	P	
	ノックアウト	R	
	ダブルノックアウト	R	
	スカーレットポニカ	R	
	チェリーポニカ	R	
	ディープボルドー	R	
	ピンクノックアウト	P	
	ピンクダブルノックアウト	P	
	ブラッシングノックアウト	P	
	レインボーノックアウト	P	
	ロザリー・ラモエール	P	
	マチネ	P	
	リモンチェッロ	Y	
	金蓮歩	Y	
	ホワイートノックアウト	w	
	フラウ・ホレ	w	
	アルテミス	w	
雪っ子	w		
ブリーズ・バルファン	p	◎	
ゾンマー・モルゲン	p		
ラベンダー・メイティランド	p		
コンパクトⅠ	フラワーカーベットローズ アップルブロッサム	P	
	フラワーカーベットローズ ゴールド	Y	
	フラワーカーベットアンバー	O	
	フラワーカーベットホワイト	W	
コンパクトⅡ	レッドドリフト	R	
	ピンクドリフト	P	
	ビーチドリフト	P	
	アプリコットドリフト	O	
	ポップコーンドリフト	Y	

スタンダード		色	香り
ばらの系統			
スタンダード	アイスバーグ	W	
クライミング			
クライミング	アンジュラ	P	
	サハラ98	Y	
	春風	R	
	ツルノックアウト	R	
	クラウン・プリンセス・マルガリータ	O	○
	つるアイスバーグ	W	
	ソンプレイユ	W	
	マリーキューリー	W	○
	新雪	W	○
	つるミセス・ハーバートスティーブンソン	P	
	エンジェル・ハート	P	
	スパニッシュ・ビューティ	P	○
	マダム・アルフレッド・キャリエール	P	
	コンラッド・フェルディナンド・マイヤー	P	◎
	ピエール・ド・ロンサール	P	
	コンスタンス・スプライ	P	◎
	シンデレラ	P	
	ジャズミーナ	P	
	コンパッション	P	○
	ティア・パール	P	○
	夢乙女	P	
	宇部小町	P	
	スプリング・メルヘン	P	
	ローラ・アシュレイ	P	
	スーパーエクセルサ	R	
	ヴェスターランド	O	○
	アイヴァンホー	Pu	○
	キング	R	
	フロレンティーナ	R	
	つるクリムゾン・グローリー	R	◎
	ドルトムント	R	
	バロン・ジロ・ド・ラン	R	◎
	パフ・ビューティ	Y	○
	フィリス・バイド	P	
	アプリコット・スカイ	P	
	モーバン・ヒル	P	
	スターチェイサー	Y	

使用するばらの主な品種

ランブラー		色	香り
	ギスレーヌ・ド・フェリゴンド	Y	
	トレジャー・トロープ	P	
	ポビー・ジェームズ	w	○
	アルベリック・バルビエ	w	
	キフツゲート	w	
	ランプリング・レクター	w	
	サンダース・ホホワイト・ランブラー	w	
	フェリステ・エ・ベルベテュ	w	
	ポールズ・ヒマラヤン・ムスク	P	
	ローラ・ダグー	P	○
	デンテル・ド・マリーン	P	
	キューランブラー	P	
	アルベルティーンヌ	P	○
	ニュー・ドーン	P	
	群星	w	
	フランソワ・ジュランビル	p	
	メイ・クイーン	p	○
	マニントン・モーヴ・ランブラー	p	
	つるセシル・ブリュネ	p	○
	ドロシー・パーキンス	p	
	リージャン・ロード・クライマー	p	
	アメリカン・ビラー	R	

その他のばらの品種はシュラブやポリアンサ、フロリバンダなどがあるが、今後植栽デザインの方針に沿って品種を選定する。

(緑町公園に植栽予定のばらリスト)

No.	種名または品種名	別名	由来	特徴
1	シェンクアン・チャイナ		ラオスで採取	DNA 解析により R. chinensis semperflorens に似る
2	ラオス・チャイナ		ラオスで採取	紅色・色変わり、小輪
3	オールド・ブラッシュ		ラオスで採取	
4	Hume's Blush Tea-scented China		ラオスで採取	
5	S-9-1 (採取番号)		四川省峨眉山にて採取	ティー系の香り強い
6	Rosa × odorata 'Double Light Yellow'	重弁淡黄香水月季	雲南省麗江黒龍潭公園で採取	
7	Rosa gigantea		インド、Vir 氏より種子分譲	
8	Rosa gigantea		雲南省で採取	ピンク花
9	R. chinensis spontanea		四川省平武	
10	R. chinensis spontanea		四川省平武	黄花
11	R. chinensis izuensis		京成バラ園	つる性
12	Indica Major		京成バラ園	
13	R. chinensis J.		京成バラ園	
14	柳葉雲南		雲南省で王国良氏発見	
15	チャイナ、紅姫		個人より	
16	春水緑波		江蘇省淮安バラ園	白色、ティーの香り
17	ヤブイバラ? 四季咲き		個人より	コンパクト、四季咲き
18	ヨナクニテリハ		浜寺公園	四季咲き
19	テリハノイバラ (刺なし)		京成バラ園	刺なし
20	テリハノイバラ、ピンク花		大橋総子氏より (双葉バラ園由来)	
21	双葉の涙 (テリハノイバラ系)		大橋総子氏より (双葉バラ園由来)	花は開平せず蕾状態
22	R. platyacantha		新疆ウイグルにて採取	黄花
23	豊華		浦辺氏より (山東省平陰由来)	食香バラ

デザイン方針の一覧表

ゾーン	場所	施設					ばらの品種			
		灌水	アーチ	ポール	オベリスク	その他	ローメンテナ ンスな ばら	他の品 種	ランブ ラー ツルば ら	スタン ダード ローズ
シンボル ゾーン	ばら公園	○	○				○	○ テーマ に沿っ た品種	○	○
	花園公園	○			○			移植 ばら	○	
	緑町公園	○			○	ばらの 野外 ミュー ジウム	○	野生種	○	
賑わい ゾーン	駅前広場	○		○	○		○		○	○
	駅前 大通り				○		○	ミステ リー ローズ		○
	市役所 本庁舎北	○		○			○		○	○
	東桜町 緑地	○		○			○		○	○
	街路樹				○		○	ミステ リー ローズ	○	○
歴史文 化ゾー ン	福山駅 北口スク ウェア	○	○	○	○		○		○	○
	アプロー チガーデ ン	○					○			○
	古（いに しえ）の ばら園							ミステ リー ローズ		

■維持管理の方針

ばらを美しく咲かせ続けるためには維持管理が重要である。ばら園の持続性を高めるためには、土壌の改良と品種の選定がその基礎となる。土壌を有機質土壌に改良することは、病気の発生を防ぎ、ばらの健全な生育を促すために必要な作業であり、団粒構造が形成されると、散水、薬剤散布、施肥などの維持管理が軽減できる。

ばら公園などの公共花壇と街路では維持管理方法も異なり、品種の特性に合わせた維持管理を行う。特に街路では無農薬で栽培可能な品種の植栽により維持管理を低減する。

■維持管理の内容

土壌改良

品種の選定



■土壌改良

毎年、畜糞堆肥、腐葉土を混入することで有機質土壌を形成する。畜糞堆肥は近隣の牧場などからローコストで調達し、腐葉土は処分する落ち葉を利用し腐植土をつくり植栽地に混入する。

■剪定

ばらの剪定は一律に行うと考えられているが、品種によって無剪定で花を咲かせる品種もあり、そのような品種を植栽することで維持管理を軽減させることが可能になる。

■薬剤散布

薬剤散布には病気予防と害虫駆除の目的があり、ばら栽培には薬剤散布は不可欠であると考えられている。しかし有機質土壌への改良と品種の選定、さらにばらの下にセダムなどを植栽することで大半の病気予防は可能となる。害虫駆除には市民の協力が得られる体制を整える。

■施肥

土壌を畜糞堆肥、腐葉土により有機質土壌を保つことで、化学肥料を使用しないでばらを栽培する。化学肥料の使用が逆に、植物の成長に必要な窒素、リン酸などを低減させることが近年報告されている。

■散水

有機質土壌に改良することで保水力が高まり散水量を低減させることは可能であるが、近年の温暖化で夏の高温に衰弱することも考えられるので、可能なところは散水設備を設置する。

■市民との協働

ばらは日常的な花がらつみや手入れなどの細やかな作業が必要であるが、細やかな手入れは公共事業のシステムに馴染み難く費用の増大につながる。本市は福山ばら大学など市民のばらへの取組が盛んで、能力のある市民の協力を得て維持管理することが望ましい。そのためには市民が維持管理に参加できる運営体制や有償ボランティアの仕組みも同時に構築する必要がある。

■土壌改良

ばらを栽培する基本は土づくりである。有機質に富む土壌に保つことで、ばらを健康に保ち、美しい花を咲かすことができる。土壌を有機質に保つためには、常に畜糞堆肥、腐葉土を混入することが不可欠である。畜糞堆肥は近隣の牧場の協力、腐葉土は落ち葉清掃の落ち葉を1箇所を集め堆肥化することが望ましい。そのための体制づくりが必要である。

■ばら及び植物の調達

ばらや植物の生産は前年に生産量を決定するので、施工時期に植物を植栽するためには、施工に先立ち、事前に苗の確保方法を検討しておく必要がある。2022年度（令和4年度）中にナーサリーと協議し、生産体制を整える。

今回の計画では、ローメンテナンスなばらを中心に植栽計画を立てており、代替品に変えることが難しいので、計画的な取組が不可避である。

■市民が参加できる仕組みづくり

ばら栽培は、害虫の発生や病気など、ばらの様子を見ながらこまめに手間をかける必要がある。年間の維持管理が決定される公共造園の仕様では対応が難しく、費用も増大する可能性がある。

本市は福山ばら大学やばら愛好団体があり、協力を得ることでばらの成長に対するこまめな手入れや維持管理を充実させ、ローコストでばらの維持管理が可能になる。ばらの調達もばら愛好者の能力を生かしてパテントの切れたものや多量のスタンダードローズは市民が参加して増殖にあたる。

■他のばら園とのネットワーク

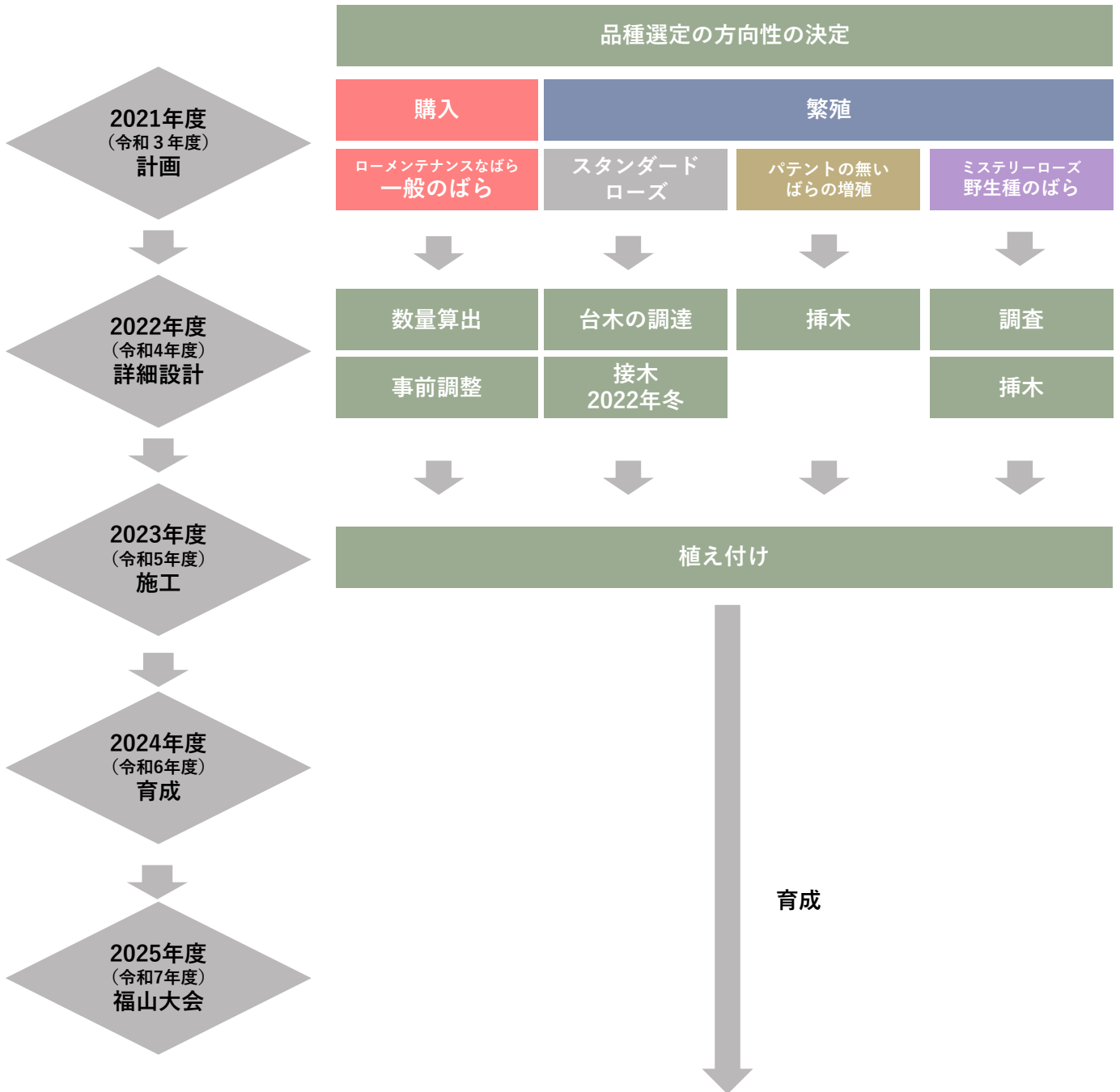
本市はばら制定都市会議（ばらサミット）などを立ち上げ、率先して日本のばら界をリードしており、行政だけではなく他のばら園とも連携を図ることで、福山のばらの充実を図ることができる。ことにミステリーローズや野生種のばらは販売していないので、他の地域の住民やばら園に協力してもらい品種を収集する。同時に情報を交換、共有することで本市が中心的な役割を担っていく。

■企業の参画

地域とともに創るばら園をめざすためには、公共空間のばら園の民間活力による整備、ネーミングライツなどのCSR（企業の社会的責任）も重要である。また、ばらづくりに関連した培養土や作業道具、新品種モデル栽培などの協賛を得て、ばらの充実を図っていく。福山大会を機会に、それらの企業の公募体制も整える必要がある。

■種類による調達方法の違い

ばらの多様な表現を実現するために、ばらの調達方法も購入するものから、他のばら園からの移譲や挿木により増殖するものなど、コストの軽減も踏まえて調達方法を検討する。次にその違いをまとめた。



国内外の参考事例（ばらの魅力を高めるデザイン集）

1：無農薬栽培の事例

バガテルローズガーデン（フランス・パリ市）	P45
浜寺公園ばら庭園（大阪府堺市ほか）	P46
六甲アイランドCITYローズガーデン（兵庫県神戸市）	P47

2：ばらの表現力を高める手法

ばらの品種と系統図	P48
多様な品種の利用	P49
混植のデザイン	P50
色彩のデザイン	P51
立体的なデザイン	P52

3：ばらのデザイン事例

立体的な表現	P53
神奈川県横浜市の取組「ガーデンシティ」	P54-55
山口県宇部市の取組「シンボルロード」	P56
長野県伊那市の取組「バラ咲く街角」	P57

■バガテルローズガーデン（フランス・パリ市）

フランスのバガテルローズガーデンは世界で最も由緒あるコンクールガーデン。バガテルローズガーデンでは以前はハイブリッド・ティーが主流であったが、パリ市では約10年ほど前から農薬使用が禁止になり、それ以降バガテルローズガーデンは無農薬でばらを栽培し、コンクールも無農薬で行っている。コンクールで優勝したものをパリ市内に植栽している。

■バガテルローズガーデン新品種国際ばらコンクール



■浜寺公園ばら庭園（大阪府堺市ほか）

1990年（平成2年）大阪で開催された『国際花と緑の博覧会』開催に合わせた大阪府の『花ふる大阪事業』の一つとして、既設のばら花壇一帯を拡張して『ばら庭園』を建設、敷地面積32,000㎡で約400種 6,000本のばらを植栽している。このばら庭園の特徴は、①野生種のばらの保全と②化学農薬の散布をしない栽培管理であり、国内の公共のばら園でも化学農薬を散布しない方法が実践され、参考にすることができる。

① 野生種のばらの保全

日本も批准している【種の多様性保存条約】に基づいて環境省が推進している絶滅危惧種の種子保存及び系統保存事業に合わせて、日本に自生する絶滅危惧種（1種）、保護植物（3種）を含む野生種のばらを系統保存。

日本各地に自生する個体と同じ遺伝子を持つ株（クローン株）を系統として保存し、未来へ引き継ぐ事業。

② 化学農薬の散布をしない栽培管理

公共公園として、安心してばらの花や香りを楽しんでいただけるよう、化学農薬の散布をしない栽培管理を行っている。

これは、現在欧米で進められている総合的な防除・除草の手法(Integrate Pests Management)と呼ばれる取組で、2010年（平成22年）3月から耐病性の高い新品種への植替え、物理的・科学的な手法、天敵生物の利用などによりばらの栽培管理をしている。

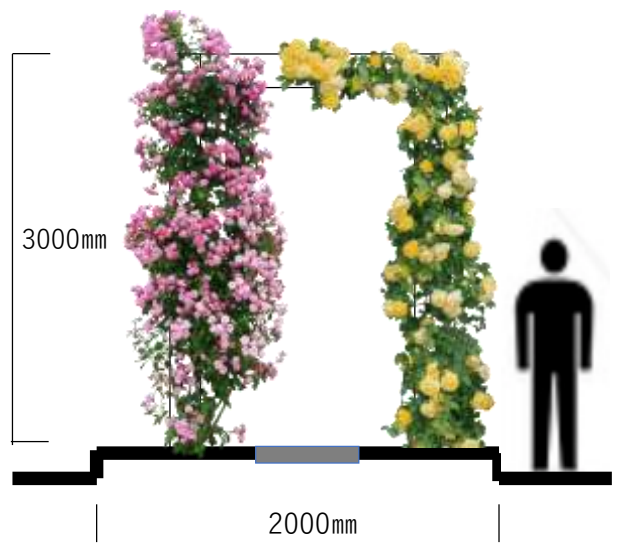


■六甲アイランドCITYローズガーデン（兵庫県神戸市）

六甲アイランドCITYローズガーデンは、神戸市の六甲アイランドにある長さ約80m、幅2mの小規模なローズガーデンであるが、ここでは地域住民が公共空間に、2012年（平成24年）から無農薬でばらを栽培している。地域の住民が知恵を絞りながら、無農薬栽培に取り組み、維持管理も自治会の有志が「ローズファミリー」という組織をつくり行っている。



2014年（平成26年）5月



六甲アイランドCITYローズガーデンの構成

■ばらの品種

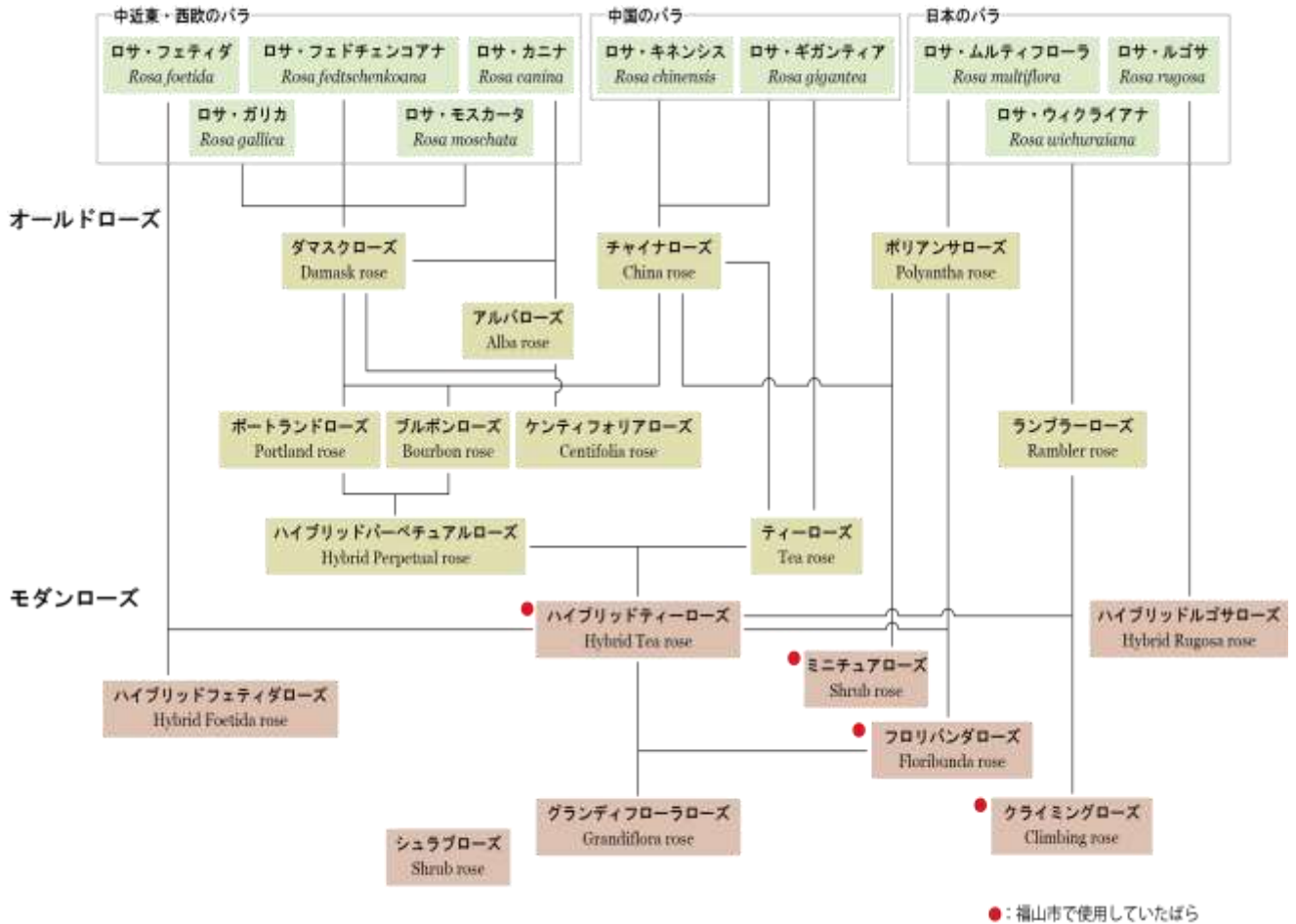
ばらは世界各地に自生するばらの種間交雑により生まれた植物であり、2千年以上にわたって改良され、そのために多様な品種があり、10cm程度のミニチュアローズから10m以上に成長するランブラーなど変化に富む。また四季咲き性、多彩な色彩は他の植物にはない優れた特徴である。

ばら園のデザインはこのようなばらの特性を理解し、生かすことで優れた景観性を創出することが可能になる。

便宜的に、モダンローズの第一号であるラ・フランスを境にそれ以前のばらをオールドローズ、それ以降のばらをモダンローズと称している。下図のようにばらは多くの系統があるが、現在本市で栽培されているばらのほとんどはハイブリッド・ティーとフロリバンダであり、ばらの世界の一部しか利用していない。今後多様な品種を植栽することで、多彩な表現が可能になる。

■ばらの系統図

ワイルドローズ（野生種）



モダンローズは中国チャイナローズとティーローズ、さらに日本の野生種のノイバラ、テリハノイバラ、ハマナスなどが交配親になっている。四季咲き性と真っ赤な花の色の色彩は、約1千年前に突然変異により誕生したチャイナローズに由来している。

■多様な品種の利用

ばらには多様な品種があり、適材適所、その場所のデザインに即して品種を使い分ける。特に今回は、緑町公園のような大規模な場所では、無剪定でもきれいな樹形にまとまり花を咲かせる大型の品種を選定する。

■多様な品種

次に、今回の計画で利用する主な品種を紹介する。



R：ランブラー 無剪定でも花を咲かせる



Pol：ポリアンサ



S：シュラブ



オールドローズ

■大型に育つばら

大型に生育するばらは見応えがあり、支柱を立てずに植える方法は今までのばら園にはなかった使い方である。



春風



スプリングパール



つるサマースノー



ギスレーヌ ド フェリゴンド

■混植のデザイン

ばらは表現力のある植物であるが、ばらだけを植えていたのでは限界がある。他の植物と混植することで四季を通してより豊かな表現が可能になる。また混植によるばらのデザインが現在主流になっている。ばらは冬には落葉してしまい寒々しいが、常緑低木を混植することで一年を通して緑を確保する。また丈夫な宿根草を混植することでローメンテナンスで一年を通して花に溢れるガーデンをデザインする。

■混植デザイン：ハウステンボス



■混植デザイン：アカオハーブ&ローズガーデン



■混植する植物事例

低木(冬の緑の確保)	宿根草・球根(丈夫な品種, ばらの花がない季節も)	一年草
 ユニペルス・ブルーカーペット	 ジキタリス	 オルレア
 マザーローデ	 アガパンサス	 ラークスパー
 アベリア ホープレイズ	 ルドベキアタカオ	 コスモス
	 ラッパスイセン	 ビオラ
		 ジャーマンアイリス
		 タチアオイ
		 クジャクアスター
		 タマスダレ

■色彩のデザイン

ばらの花は多くの色合いがあり、その色彩を組み合わせることで多様な表現が可能になる。ばらの品種を選定する時に、強い色合い、淡い色合いなどを考慮することで、ガーデンとして魅力をアップさせることができる。

さらに草花を混植することで表現の奥行きを広げ、季節感を演出する。

■色彩の組み合わせ

淡い色のピンクの組み合わせ

淡い色のばらとジキタリスなどの草花を組み合わせることでロマンティックなイメージになる。



黄色の組み合わせ

黄色のばらとジキタリスなどの草花を組み合わせることで明るく爽やかなイメージになる。



白と紫の組み合わせ

ばらにはブルー系の色合いがないのでブルー系の草花と組み合わせることで涼やかなイメージになる。

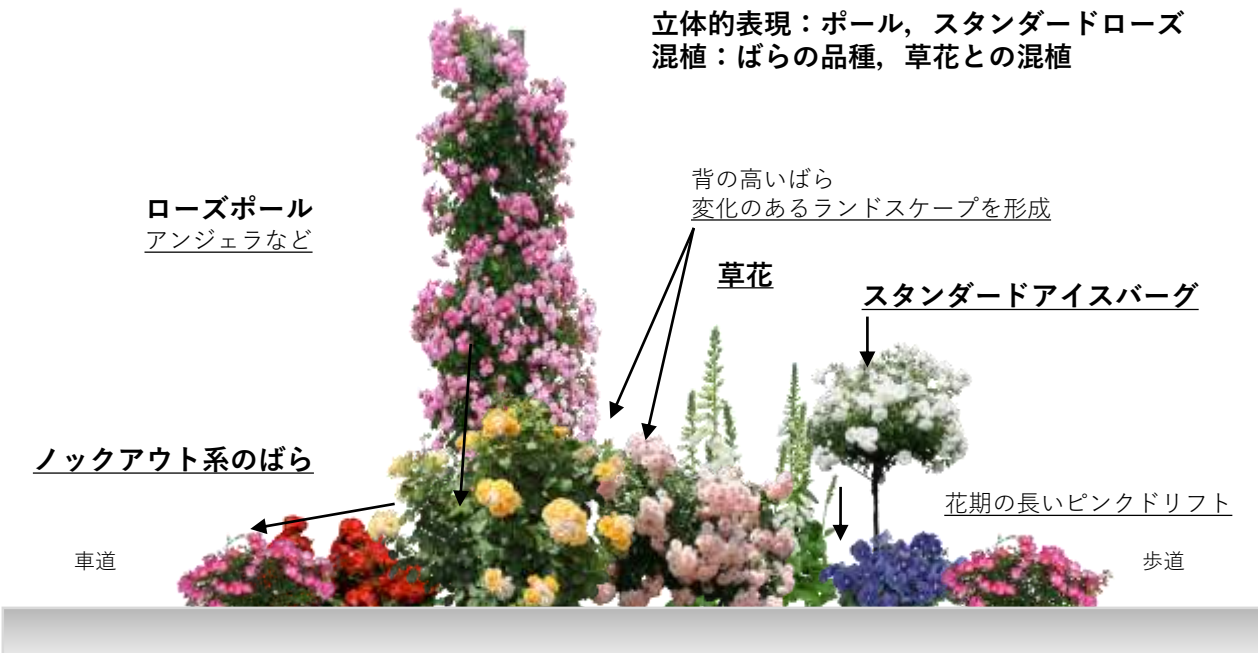


■立体的なデザイン

ハイブリッド・ティーやフロリバンダだけでは、ばらの背丈が一定であるため表現力に乏しい。ばらの品種の特性を活かし、さまざまに立体的にばら表現し、感動的なばら園を創出する。スタンダード仕立て、ポール仕立て、アーチ仕立てなど、さまざまに演出する。
また、ばらの品種や草花を高低差を組み合わせてばらの魅力を引き立てるデザインを行う。



■ばらの立体的な組み合わせによる植栽デザイン



■立体的な表現

ばらを立体的に表現することで、ばらの多彩な表現を可能にする。アーチから降るように咲かせたり、上から下に垂らせばらを咲かせることもできる。フランスのライレローズガーデンでは宮殿の形にばらを咲かせ、ゴージャスに表現している。

■立体のデザイン：ガーデン事例



ばらを降るように咲かす
アカオハーブ&ローズガーデン



ハウステンボスローズガーデン

■立体のデザイン：海外のガーデン事例 (フランス)



ラ・ボン・メゾン
立体的にばらが表現されている庭園
ばらの自然な樹形を生かしてデザインされている。



ライレローズガーデンではさまざまな立体表現によりばらの美しさを追求している。

■神奈川県横浜市の取組「ガーデンシティ」

2017年（平成29年）に開催された都市緑化よこはまフェアが市民から高い評価を得たことを受けて、横浜市は2018年（平成30年）に中期計画へ「ガーデンシティ」を盛り込み、まち全体のガーデン化を推進している。2021年（令和3年）に竣工した横浜市新庁舎は庁舎の周囲をローズガーデンとし、市民の憩いの場として親しまれている。

■山下公園



上：改修前
右：改修後の「未来のバラ園」

■港の見える丘公園の改修



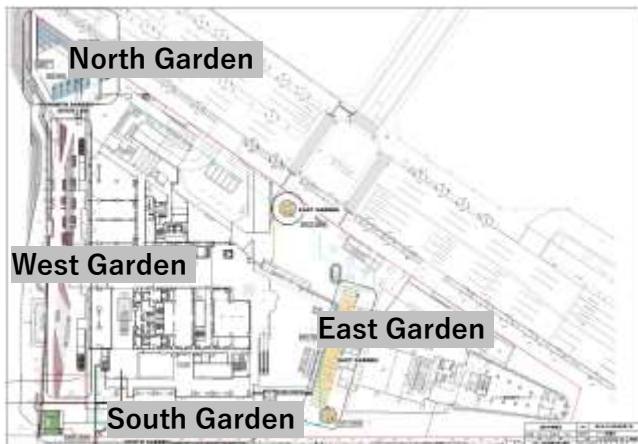
「イングリッシュローズの庭」，「香りの庭」

■都市緑化よこはまフェア「日本大通りフラワーフェスタ」



横浜で2017年（平成29年）に開催された都市緑化よこはまフェアの「日本大通りフラワーフェスタ」は街路をローズガーデン化し、横浜市のめざすガーデンシティのイメージを明確に表現した。

■横浜市役所ローズガーデン



ガーデン配置図



West Garden



West Garden



South Garden

市役所の周囲をばらと草花の混植ガーデンとしてデザイン
立体的なばらはスタンダードアイスバーグ



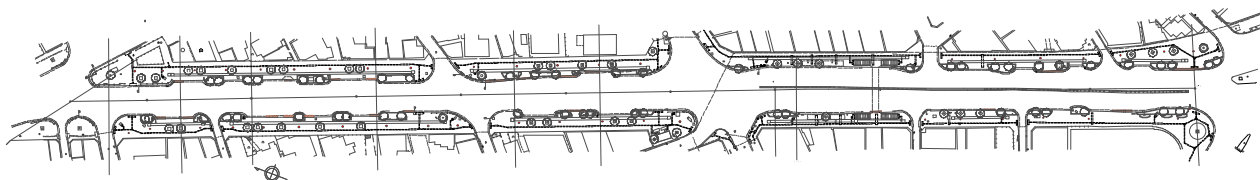
North Garden



East Garden : シェードガーデン

■山口県宇部市の取組「シンボルロード」

宇部市はガーデンシティを構想し、市の花であるばらを中心に都市部のガーデン化を図ってきた。その中心になるのが宇部市中心市街地のシンボルロードである。ガーデンマイスター制度により市民が植栽及び管理を担当し、ガーデンシティの中核を担っている。



シンボルロード



改修前のシンボルロード



改修後のシンボルロード



■新品種のばら

第30回ばら制定都市会議（ばらサミット）で発表された宇部ミステリーローズと宇部小町の交配種
市民からネーミングを募集し「宇部百花」と命名された。



「宇部ミステリーローズ」と「宇部小町」の交配種

系統：ミニチュア
花色：白
四季咲き



「宇部小町」

■長野県伊那市の取組「バラ咲く街角」

伊那市は中心市街地の活性化をばらにより推進している。約2 kmの商店街に沿って約1,000本のばらをコンテナで栽培。ばら栽培は里親制度により維持されており、住民がばらづくりに参加することで住民の意識も前向きに変化してきた。

■商店街で栽培されているばらの配置図



ばらを街路に沿って栽培することで商店街のイメージが変わった。





第20回
世界バラ会議
福山大会
2025

WFRS 20th
WORLD ROSE CONVENTION
2025 in FUKUYAMA

発行者

福山市 市民局 世界バラ会議推進部 世界バラ会議推進室

〒720-8501 福山市東桜町3番5号

電話 | (084) 928-1210 FAX | (084) 928-1229

E-mail | world-rose-convention@city.fukuyama.hiroshima.jp